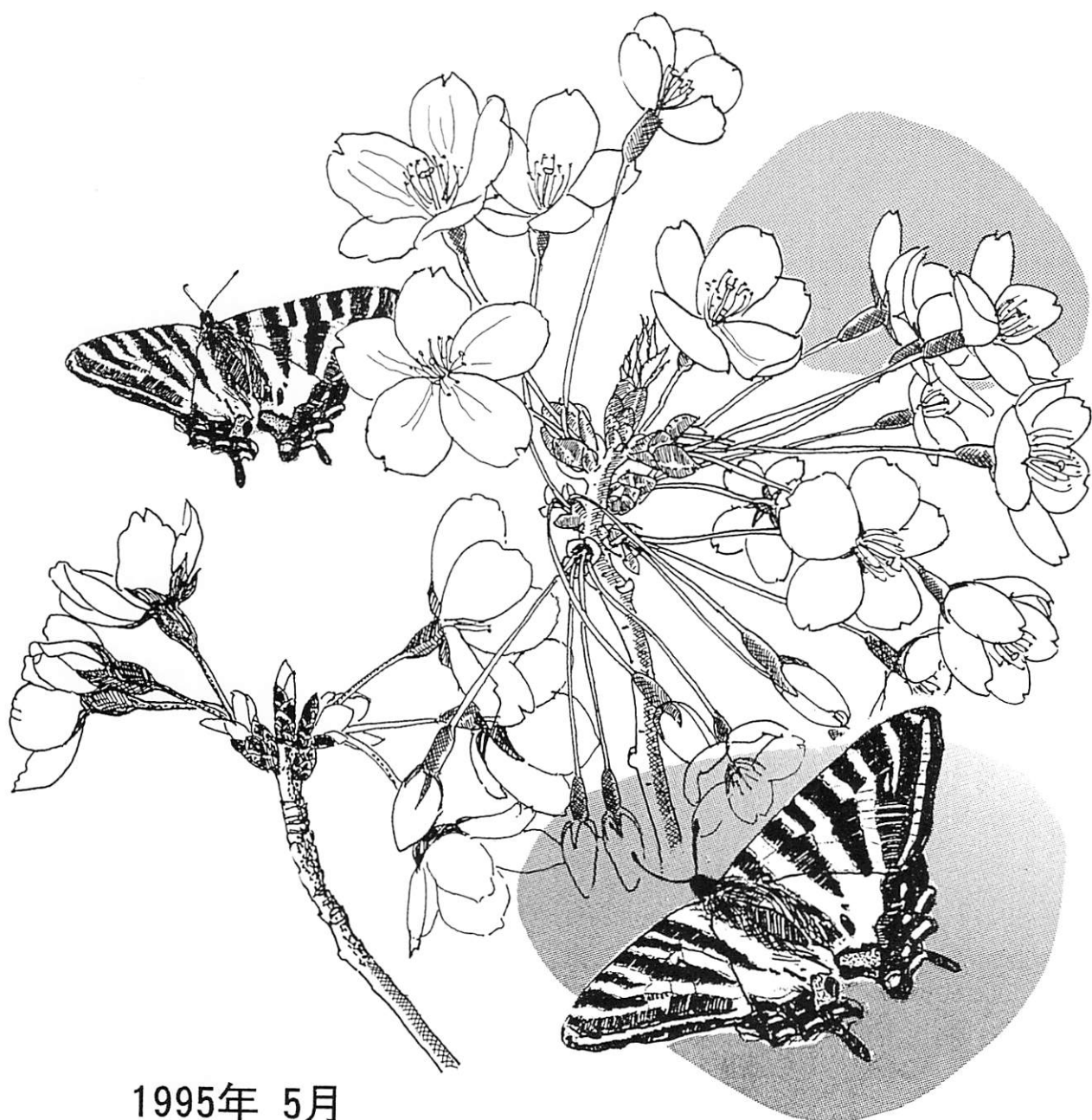


きべりはむし

第23巻 第1号



1995年 5月

兵庫昆虫同好会

ヤマトエンマコガネの分布について

高橋 寿郎

ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold, 1875 は、神戸に在留した Lenz, Tuisson が採集した標本に基づいて Harold が 1875 (明治 8) 年新種記載された糞虫であり、詳しい産地はわからないが神戸産ではないかと考えられる。同じ年、C.O. Waterhouse は、「日本産鰐角類について」の論文の中で、このヤマトエンマコガネの産地は Hiogo and Osaka "At the foot of Maiyasan it has occurred in great plenty" と全く信じられないような記録を残している。当時の摩耶山麓には野猿、野鹿がいたという記録があるから、その

ころこの種が多くいたということはあながち否定はできない。ただ、それ以後全く記録がみられないので、この記録に疑問をいだきながら、残念ながら現在では絶滅した種、いないと云わざるを得ない種と考えている。現在は、日本全国を眺めてみても本種の確実な産地がないような現状であるので、次に文献によってこの種の分布を眺めてみることにした。

1. * Harold, E.V. (1875) Verzeichniss der von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleopteren.

Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV: 283-296

Lenz, Tuisson は商人として 1874 から 1880 年の間神戸に在留した。その間甲虫類を採集し、その採集品に基づいて Harold は二篇の論文を発表した。その第一報の p. 290, 17 に *Onthophagus japonicus* なる新種記載をされている。これがヤマトエンマコガネの原記載になる。詳しい具体的産地は書いていない。現在 *Onthophagus* 属 *Strandius* 亜属に扱われている。

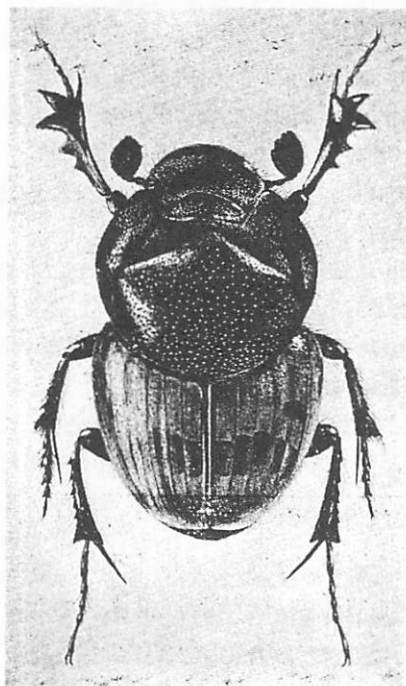
2. C.O. Waterhouse (1875) On the Lamellicorn Coleoptera of Japan.

Trans. ent. Soc. London, Part I: 71-116.

p. 76-77 *Onthophagus japonicus* Harold
Hab. Hiogo and Osaka "At the foot of Maiyasan it has occurred in great plenty."

3. G. Lewis (1879) A Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago. London.
p. 13, 875. *Onthophagus japonicus* Harold
種名のみ。

4. Schonfeldt, H.V. (1887) Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezügeli-



Onthophagus japonicus Harold
ヤマトエンマコガネ
加藤正世・昆虫界 VII (67), 1939 より

* 兵庫県甲虫相資料, 302

** 番号は便宜的につけたものである。

chen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrb.d.nass.Ver.Naterhunde 40:31-204

p.104. *Onthophagus japonicus* Harold.

Hiogo, Osaka, Maiyasan.

5. A.Boucomont et J.J.E.Gillet(1927) W.Junk Coleopt.Cat.Pars.90.

Scarabaeidae:CoprinaeII,Tremittotroginae.

p.139. *Onthophagus japonicus* Harold.

Japan.

6. 加藤正世(1930) 趣味の昆虫採集 24pls.(4 coloured)+225p. (三省堂, 東京)

pl.22にヤマトマグソダイコクとして新称をつけて図解したものが本種の初めての図解。

7. 加藤正世(1933) 分類 原色日本昆虫図鑑 第八輯 鞘翅目 (厚生閣, 東京)

pl.33,f.6. ヤマトマグソダイコク(♂) *Onthophagus japonicus* Harold 分布. 本州, 九州, 台湾。

8. 須川敏彦(1934) 上州四萬温泉付近に於ける甲虫類. 昆虫界 2(12): 613-618.

p.614.18. ヤマトマグソコガネ *Onthophagus japonicus* Harold. 飛翔中を採集。

9. 加藤正世(1937) だいこくこがね亜科の分類. 昆虫界 5(39): 15-19.

p.19. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ 分布. 本州, 九州, 台湾。

10. 竹内誠一(1937) 四萬温泉甲虫相. 昆虫界 5(42): 1-15.

p.4. 鰐角亜目(47) *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ Dung-糞より。

11. Matsumura,S.(1937) New *Onthophagus*-species in Japan with a tabular key. Ins.Mats., 11(4): 150-169.

はじめにTabular key to the *Onthophagus*-species of Japan が示され、その中に *Onthophagus japonicus* Har. は出てくるが、分布など全く示されていない。

12. Matsumura,S. The *Onthophagus*-Insects from Korea with descriptions of New Species. Ins. Mats.,12(1): 1-6.

はじめに A List of the *Onthophagus* Insects from Korea が出ており、6. *Onthophagus japonicus* Har. Abh.Nat.Ver.Bremen. p.290(1874)が 出ている。分布はKorea;Japanとだけになっている。

13. 関 和一(1938) 奈良. 春日山産糞虫目録. 昆虫界 6(58): 10-14.

p.13. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ

稀なようであるが9月下旬より10月上旬まではかなり多く産するとある。

14. 三輪勇四郎・中條道夫(1939) 日本産鞘翅目分類目録. Pars.5 金龜子虫科

p.11. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ Distr.Japan(Honsyu)

15. 加藤正世(1939) 金龜子図説(3) ヤマトエンマコガネ 昆虫界 7(67): 32-33

16. 水田国康(1955) ヤマトエンマコガネの斑紋. 新昆虫 8(5): 54

奈良三笠山の人糞より1953年10月15,16,18の3日間にわたってヤマトエンマコガネ66頭採集。

17. 後藤光男(1955) 原色日本昆虫図鑑 甲虫篇 増補改訂版(保育社・大阪)

pl.29,fig.617. ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 稀に上翅の黒紋が無く全く黄褐色の個体が得られる。ab. *testaceipennis* Iga et Goto と呼ばれる。本邦では奈良公園と佐渡島しか採集されない。分布. 本州, 朝鮮, 支那. 奈良春日山 V.1942. 標本図説。

18. 中根猛彦. 日本のこがねむし(IV) 昆虫学評論 7(2): 53-57(ref.p.56)

ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 分布. 本州, 朝鮮, 支那。

19. 中根猛彦・馬場金太郎(1960) 新潟県 金龜子虫類. 市立長岡科学博物館報(4): 1-9.

- p.2. 16. *Onthophagus (Strandius) japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ Sado:Oda.
20. S.Nomura(1960) List of the Japanese Scarabaeoidea(Coleoptera) Toho Gakuho(10):39-79.
- p.46. ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold. Honshu,Sado,Korea,China.
21. 後藤光男(1962) 日本産食糞コガネムシ類目録(Ⅱ). 日本産甲虫チェックリスト(11)(Ⅳ.1962)(p.4). (日本甲虫学会. 大阪)
22. V.Balthasar(1963) Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaearktischen und Orientalischen Region. Band.2.Coprinae. p.395-396. 234. *Onthophagus (Strandius) japonica* Har. Types in Muséum d'Histoire Naturelle in Paris (Coll.Oberthür)
23. 中根猛彦(1963) 原色昆虫大図鑑Ⅱ(甲虫篇) pl.59, Fig.2, p.117.
ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 獣糞にくるが局地的に産する。分布。本州, 朝鮮, 支那。
24. 谷 幸三(1966) 奈良公園の糞虫 Nature Study 12(5):3-7.
ヤマトエンマコガネ出現期 4~11月上旬迄。
25. 谷 幸三(1966) 糞虫成虫個体群の生態学的研究 大和の昆虫(3・4):3-10.
26. 後藤光男・土井仲治郎(1966) 奈良県の糞虫 大和の昆虫(3・4):36-47.
ヤマトエンマコガネ 奈良では奈良公園、春日山、高円山等比較的広く分布すると。奈良公園若草山での10exs.の採集例を示されている。
27. 後藤光男(1966) 日本産食糞コガネムシ類仮目録 大和の昆虫(3・4):47-52(ref.p.49)
28. 益本仁雄(1967) 日本産コガネムシ類解説〔食糞群〕Ⅳ. 昆虫と自然 2(4):14-17.
p.16 ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 本州(奈良), 佐渡, 朝鮮, 支那。「秋季に個体数を増し、人糞を好むそうです」と解説されている。
29. 石田正明(1968) 甲虫とりある記(1)<糞虫篇> 昆虫と自然 3(11):4-5.
八幡平(秋田県)のヤマトエンマコガネについて解説。
30. 北村 豊(1967) ヤマトエンマコガネ牛尾山に産す. 甲虫ニュース(5):3-4.
京都市東山区牛尾山 1♀, 13.X.1968
31. 益本仁雄(1973) フン虫の採集と観察 (ニューサイエンス社・東京)
谷 幸三の1966年の報文の引用あり。
32. S.Nomura(1973) Notes on the Coprophagous Lamellicornia from Taiwan. Ent.Rev.Japan 25(1/2):37-52, pl.7-8.
台湾にヤマトエンマコガネを産することは古い文献にも勿論出ている。(加藤正世, 1933, 1937) 但し、三輪勇二郎, 台湾産昆虫目録(鞘翅目). 台湾總督府中央研究所農業部報告(1931)の中には出てこない。
本報文で初めて具体的にWushe(Ⅳ)(p.47)と産地が示された(詳しいデータはない。この報文に使用された標本類は、大阪の芝田太一氏のところで昆虫を研究しているグループHayashi, Kobayashi, Kiyoyama, Maeda, Nomura等々の方による1968年から1973年にわたる台湾での採集品である。)
33. 林 長閑(1975) 学習中高生図鑑 昆虫Ⅱ・甲虫(学研・東京)
p.70, 411. 美しいカラーで図説。分布は本州, 朝鮮半島, 中国。
34. 益本仁雄(1976) 台湾産食糞コガネムシ解説〔2〕 ELYTRA, Tokyo 4(1):1-8.
ヤマトエンマコガネの台湾での産地を"霧社(7月)"と記録されている。詳しいデータがついていない。前記 Nomuraの引用かとも考える(採集月が違う)。
35. C.W.Kim(1978) Distribution Atlas of Insects of Korea. Series, 2, Coleoptera. pl.XXXIV, SC13, p.331.

Onthophagus japonicus Harold 南朝鮮での分布はわりと限られた地点のようである。

36. Z.Stebnicka(1980) Scarabaeoidea(Coleoptera) of the Democratic People's Republic of Korea. Acta Zool.Cracov.24(5):191-298, 232text-figs.

p.221-222,Figs.18,19. *Onthophagus(Strandius) japonicus* Harold,1874.

北朝鮮の各地に産するようであり、28♂♀の産地が示されている。註書きにBalthasar(1963)によると日本ではそうそう見られる種ではないが広く分布しているようであり、北朝鮮各地でも似たような分布をしており、いろんなところで得られるが、まとまって得られないとある。

37. 黒沢良彦・渡辺泰明(1984) 野外ハンドブック12. 甲虫 (山と溪谷社・東京)

p.182. 美しいカラーで示されている。和名だけで分布は本州とのみ。

38. 塚本圭一(1985) 日本産*Onthophagus* 属についての覚書. Bull.Heian High School,Kyoto No. 29:31-60,pl.1,2.

p.47.26 ヤマトエンマコガネ既知産地を示す。

39. 塚本圭一(1985) 日本産食糞性コガネムシ目録. 京都府私学研究論集 (23):1-25.

p.21-22, *Onthophagus(Strandius) japonicus* Harold,1875 ヤマトエンマコガネ 分布. Hon-shu,Korea,China,Formosaとある。

40. 越智輝雄(1985) 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ) (保育社・大阪)

pl.65,f.9,p.358 ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold 秋に多く、乾燥地の獣糞にくるが、産地はきわめて局地的で限られる。

本州、佐渡、朝鮮半島、中国、台湾に分布。

41. 塚本圭一(1986) 日本産食糞性コガネムシ類の分布より考察した糞処理能力についての研究。

Bull.Heian High School No.30:1-36,pl.2.

pl.1,f.1に *Onthophagus japonicus* の日本における分布を地図上に示し、C型(大陸型)であ

るが、日本では分布域の狭い種で、たぶん朝鮮半島経由で入ってきたのであろうと記されている。

42. 塚本圭一(1987) 日本産食糞性コガネムシ類分布資料(2). Bull.Heian High School(31):25-70.

糞虫の都道府県別分布表の中で、ヤマトエンマコガネが示されている。府県名は次のとおりである。Akita,Niigata,Gunma,Kyoto,Nara,Hyogo.

43. 石田正明・藤岡昌介(1988) 日本産コガネムシ主科目録(第一版補訂版) LAMELLICORNIA Suppl.2:16

Onthophagus(Strandius) japonicus Harold, 1873 ヤマトエンマコガネ 本州、佐渡、台湾、朝鮮半島。

44. 塚本圭一(1988) 日本産食糞性コガネムシ類の検索表 京都私学研究論集(26):31-47.

ヤマトエンマコガネ 本州、朝鮮、台湾、中国に分布とある。(p.47)

45. 高橋 敏(1991) 奈良公園の甲虫 関西昆虫談話会資料 第1号

p.13 ヤマトエンマコガネ 五雲峰(宇治市) 25.VII.1990

46. 水田国康(1992) 食糞性コガネムシ類の前胸背幅長と体長の測定 広島虫の会会報(31):11-14.

p.12. ここではヤマトエンマコガネは奈良産のものが測定標本として用いられている。

47. 塚本圭一(1993) 日本糞虫記(育土社・東京) 名著であるが、どうしたものかヤマトエンマコガネに関連しての記事がほとんどない(p.226のリストに出てくる)。

筆者が見ることのできたヤマトエンマコガネについての文献類は、貧弱な筆者所有のものからであり、地方誌など充分見ていないので、多くの脱落見落としがあることと思われるが(この点御教示をお願い致したい) 意外と少ないように思われる。それだけにこの糞虫に接することの少ないこ

と、この糞虫に関心のないことによって真の意味の日本における産出状況、分布状況がよくわからない種の1つではないかと考えられる。現在の分布として本州、佐渡、朝鮮半島、中国、台湾があげられる(越智, 1985)。日本以外の状況はともかくとして、日本では現時点で確実に産するといったところがほとんど知られていない。かつて、摩耶山麓に多産した記録はあるが、現在の産出は無理と考えられる。奈良の奈良公園、春日山、高円山などにはごく最近までは多くいたようであるが、ここ十数年来いるといった情報をほとんど知らない。全く産出状況がわからない。一般にいると云った記録は簡単ではあるが、いなくなったとは軽々には云えないように思う。

どちらにしても日本産としては大変特異な珍しい糞虫の1種である。

(追記)

脱稿後(1994年12月)、松江の淀江賢一郎氏から次の文献のコピーを送って頂いた。即ち、

近木英哉(1964) 島根県の昆虫目録Ⅲ 鞘翅目(コガネムシ主科) 島根農科大学研究報告(12A): 24-31.

その中、p.25に"11. *Onthophagus japonicus* Harold ヤマトエンマコガネ VI: 三瓶山"の記録があった。山陰地方からの本種の記録としては

唯一のものと考えられる。大変貴重な記録である。現在どのような状況なのか興味があるし、調べてみたいものである。

この文献コピーを送って頂いた淀江賢一郎氏に厚くお礼申し上げる。

さらに、1994年11月大阪のS社から北朝鮮の糞虫類を入手した。或いはヤマトエンマコガネがはいっていないかと、エンマコガネ類のセットとして30exs.送ってもらったものの中に、やはりヤマトエンマコガネが1♂♀いた。北朝鮮で別に意識して採集されたものではなく、ただ糞虫として採集したものを無作為に糞虫セットとして購入した、その中にこの種を見いだすことができたことは、この採集地(冠帽峰成境北道、北朝鮮北東部 3~6. VII, 1994)あたり北朝鮮には広く分布している種なのかもしれない(塚本珪一氏も朝鮮半島経由で入ってきたものであろうとされている。1986)。

なお、最後になったが筆者自身奈良公園あたり何度か採集に行ったが本種の採集はない。戦前住吉におられた故米谷正司氏宅で同氏が奈良公園で採集された多くの標本を見せて頂いたことがあり、そのうちの1頭貰い受けて保管していたが、この標本も現在、人と自然の博物館の保管となっている。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

イシガケチョウに注目

南国の蝶イシガケチョウは、近年北に分布を拡大しています。岡山県をフィールドとする難波通孝さんは、1994年の初夏から初冬にかけて、岡山県南部で羽化したイシガケチョウが北に分布を拡大していく様子を明らかにされ(1994, イシガケチョウの飛翔 難波通孝著)、調査の過程で区域を兵庫県から福井県まで広げて、福井県まで分布を拡大していることをつきとめられました。

兵庫県内では、大屋町から朝来町を結ぶラインを北限として、第2化の幼虫、蛹が確認されています。県南部では、第1化のイシガケチョウがイヌビワ、イタビカズラや庭のイチジクで発生している可能性が大いにあります。イシガケチョウの情報をお寄せ下さい。

(編集子より)

波賀町引原ダム周辺における蛾相 第1報

(兵庫県産蛾類分布調査資料 . 1)

高島 昭

兵庫県西部に位置する西播地域は、氷ノ山をはじめとする1,000~1,500m級の中国山地から、南は0mの瀬戸内沿岸まで標高差が大きく、それによっても自然環境も大きく変化に富んでいる。原植生もブナ・ミズナラ帯から暖帯林まで幅広く、それに岡山県の吉備高原から連続したやや内陸的な要素もみられ、この地域を特徴づけている。

しかし、近年、植林や開発が進み、このような自然破壊が生態系に大きな影響を与えているものと思われる。

一方、県内の蛾の分布調査は他の昆虫に比べて遅れており、一部地域を除き系統だった調査データに乏しいように思われる。これは、蝶やカミキリのような華やかさが乏しいこと、大部分の種が夜行性であり、採集環境が限られること、種類が多く同定にやっかいなものが多いことなどが原因

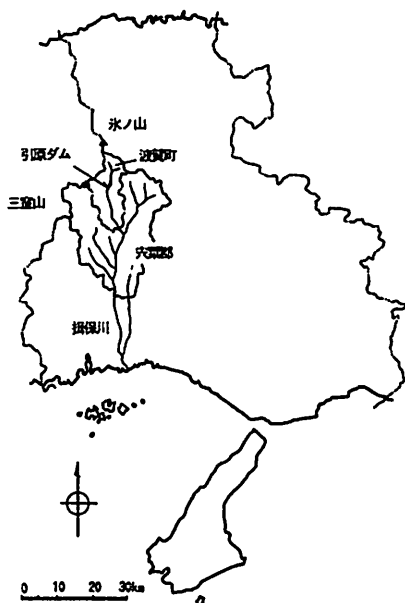
としてあげられる。そのような理由から、少数の愛好家や学者によるデータが紹介される程度にとどまっているのが現状である。そこで、兵庫県の蛾相解明の一助にでもなればと、西播地域を中心に蛾の分布調査に手がけることにした。今回、その手始めとして、宍粟郡波賀町の引原ダム（標高500m）で定点調査を実施した。引原ダムを調査地点に選んだのは、過去に遊磨正秀氏による詳しい調査がなされており、それから十数年の経過による変化も明らかにできると考えたからである。

調査は、1987年8月から1988年11月まで、延べ32回行い、引原ダムの堰堤の水銀灯に飛来した個体を採集した。採集時間は概ね日没時から午後10時頃までとした。ただし、小蛾類については、同定や標本作製の手間がかかるため一部を除いて採集していない。また、一度採集した種は飛来しても無視することも多く、採集個体数も多くは1~2頭にとどめているので、発生時期や個体密度の参考としては、いささか不備であることをあらかじめお断りしておく。

したがって、ミクロや採集していない冬から早春にかけての種についてはほとんど未知であること、光源に飛来する性質のない種や、主たる活動時間帯が合わない種については、データがないなど、不完全な調査結果であることは承知の上で、中間報告としたい。なお、紙面の都合上、今回はヤガ科、トラガ科について報告する。

参考までに、採集した日時を示すと次のとおりである。

1987年	8/11, 12, 25	9/5, 10, 26
1988年	3/24, 27	4/28
	5/16, 26	6/7, 15, 18,
	26	7/2, 9, 16, 25, 29
	8/5, 9, 20, 26	
	9/1, 7, 17, 22	10/1, 7, 19
		11/4



宍粟郡波賀町引原ダムの位置概念図

ヤ ガ 科

<ウスベリケンモン亜科>

Anacronicta nitida Butler

ウスベリケンモン

25.VIII.1987 3exs., 5.IX.1987 2exs.

Anacronicta Caliginea Butler

コウスベリケンモン

7.VI.1988 1♂

Trichosea champa Moore

キバラケンモン

10.IX.1988 1ex., 26.VIII.1988 1♂

Panthea coenobita Esper

カラフトゴマケンモン

25.VII.1988 1♂, 9.VIII.1988 1♂

Colocasia jezoensis Matsumura

ネグロケンモン

28.IV.1988 1♂, 5.VIII.1988 3♀

<ケンモン亜科>

Noma alpium Osbeck

ゴマケンモン

25.VIII.1987 1ex., 26.VI.1988 1♂1♀

Noma fulvicollis de Lattin

キクビゴマケンモン

2.VII.1988 1♀, 25.VII.1988 1♂1♀

Nacna malachitis Oberthür

ニッコウアオケンモン

26.IX.1987 1ex.

Nacna sugitanii Nagano

スギタニアオケンモン

25.VIII.1987 1♂, 7.IX.1988 1♀

Gerbathodes lichenodes Graeser

シロフヒメケンモン

26.VI.1988 1♂, 2.VII.1988 1♀

Acrionicta major Bremer

オオケンモン

12.VIII.1987 1♂1♀, 25.VIII.1987 2exs.,

16.VII.1988 1♂

Plataplecta aibistigma Hampson

シロモンケンモン

1.IX.1988 1♂1♀, 22.IX.1988 1♀

Triaena cuspidis Hübner

オオホソバケンモン

7.VI.1988 1♂, 26.VI.1988 1♂

Hylonycta hercules Ferder

シロシタケンモン

5.IX.1987 1ex., 9.VII.1988 1♀

Viminia rumicis oriens Strand

ナシケンモン

7.VI.1988 1♂, 18.VI.1988 1♂,

26.VI.1988 1♂, 17.VI.1988 1♂,

8.VII.1988 1♀

Craniphora lingstri Schiffermüller

イボタケンモン

7.IX.1988 1♂

Craniphora praelara Hampson

ニッコウケンモン

25.VII.1988 1♂, 1.IX.1988 1♀

Narcotina niveosparsa Matsumura

シロフクロケンモン

25.VII.1988 1♂

Lophonycta confusa Leech

アミメケンモン

2.VII.1988 1♂, 16.VII.1988 1♀

<キノコヨトウ亜科>

Stenoloba jankowskii Oberthür

シロスジキノコヨトウ

9.VII.1988 1♀, 25.VII.1988 1♀

<タバコガ亜科>

Helocoverpa armigera Hübner

オオタバコガ

20.VIII.1988 1♂

Pryrhia bifasciata pryeri Moore

ウスオビヤガ

22.IX.1988 1♂

<モンヤガ亜科>

Eaxoa sibirica Boisduval

ウスグロヤガ

25.VII.1988 1♂

Agrotis ipsilon Hufnagel

タマナヤガ

27.III.1988 1♀

Agrotis segetum Denis & Schiffermüller

カブラヤガ

24.III.1988 1♂, 29.VII.1988 1♂

Hermonassa cecilia Butler

クロクモヤガ

7.VI.1988 4♀, 7.X.1988 1♀

Sineugraphe exusta Butler

カバスジャガ

26.IX.1987 1♀, 25.VII.1988 1♂,

29.VII.1988 1♀, 22.IX.1988 1♂

Sineugraphe bipartita Graeser

ウスイロカバスジャガ

29.VII.1988 3♂1♀, 22.IX.1988 1♀,

7.X.1988 1♀

Sineugraphe longipennis Bourish

オオカバスジャガ

16.VII.1988 2♂, 25.VII.1988 1♂

Diarsia deparca Butler

コウスチャヤガ

26.V.1988 1♀, 7.IX.1988 1♂

Diarsia canescens Butler

オオバコヤガ

26.IX.1987 2exs., 16.V.1988 1♂,

18.VI.1988 1♀, 1.X.1988 2♂,

7.X.1988 2♂1♀, 19.X.1988 1♂1♀

Diarsia ruficauda Warren

ウスイロアカフヤガ

16.VII.1988 1♂, 7.IX.1988 1♂

Xestia c-nigrum Linnaeus

シロモンヤガ

26.V.1988 1♀, 7.VI.1988 1♀,

26.VI.1988 1♀, 17.IX.1988 1♂

Xestia kollari plumbta Butler

ハコベヤガ

26.IX.1987 1ex., 1.X.1988 1♀

Xestia efflorescens Butler

キシタミドリヤガ

12.VIII.1987 1♂, 10.IX.1987 1ex.

Xestia semiherbida decorata Butler

ハイイロキシタヤガ

26.V.1988 1ex., 2.VII.1988 1♀,

17.IX.1988 1♀

Xestia fuscostigma Bremer

クロフトビイロヤガ

1.X.1988 1♀

Anaplectoides virens Butler

オオアオバヤガ

11.VIII.1987 2♂, 25.VIII.1987 1ex.

<ヨトウガ亜科>

Melanchra persicariae japonibia Bryk

シラホシヨトウ

10.VIII.1987 1ex., 29.VII.1988 1♂,

7.IX.1988 1♀

Sarcopolia illoba Butler

シロシタヨトウ

11.VIII.1987 1♂, 16.V.1988 1♀,

7.VI.1989 1♀, 7.IX.1988 1♀

Dictyestra dissecta Walker

キミヤクヨトウ

7.X.1988 1♂

Hadena rivularis honeyi Yoshimoto

フサクビヨトウ

18.VI.1988 1♂, 25.VII.1988 1♂

Protomiselia bilinea Hampson

フタスジヨトウ

9.VII.1988 2♀, 9.VIII.1988 1♀

Egira saxea Leech

ケンモンキリガ

24.Ⅲ.1988 1♀, 28.Ⅳ.1988 3♂2♀,
16.Ⅴ.1988 1♀*Clavipalpus aurariae* Oberthür

キンイロキリガ

28.Ⅳ.1988 3♀

Orthosia angustipennis Matsumura

ホソバキリガ

24.Ⅲ.1988 1♀

Orthosia munda Denis & Schiffermüller

スモモキリガ

27.Ⅲ.1988 1♂, 28.Ⅳ.1988 1♂1♀

Orthosia odiosa Butler

チャイロキリガ

24.Ⅲ.1988 1♂, 28.Ⅳ.1988 1♂

Orthosia carnipennis Butler

アカバキリガ

24.Ⅲ.1988 1♂, 28.Ⅳ.1988 1♂

Mythimna divergens Butler

ナガフタオビキョトウ

11.Ⅷ.1987 1♂, 25.Ⅶ.1988 1♂
29.Ⅶ.1988 1♀, 20.Ⅷ.1988 1♂*Aletia radiata* Bremer

フタテンキョトウ

1.Ⅸ.1988 1♀

Pseudoletia separata Walker

アワヨトウ

26.Ⅸ.1987 lex.

Leucania striata Leech

スジシロキョトウ

26.Ⅸ.1987 lex., 25.Ⅶ.1988 1♀

<セダカモクメ亜科>

Cucullia maculosa Staudinger

ハイイロセダカモクメ

17.Ⅸ.1988 1♂

Xylota formosa Butler

キバラモクメキリガ

24.Ⅲ.1988 2♀, 27.Ⅲ.1988 1♀

Daseochaeta viridis Leech

ケンモンミドリキリガ

19.Ⅹ.1988 1♂

Daseochaeta pryori Leech

ブライヤオビキリガ

19.Ⅹ.1988 2♂

Eupsilia unipuncta Scriba

ムラサキミツボシキリガ

4.Ⅺ.1988 1♂

Conistra albipuncta Leech

ホシオビキリガ

28.Ⅳ.1988 1♀

Telorta edentata Leech

キトガリキリガ

19.Ⅹ.1988 1♂, 4.Ⅺ.1988 1♂

Antivaleria viridimacula Graeser

アオバハガタヨトウ

19.Ⅹ.1988 1♂

Meganephria extensa Butler

ミドリハガタヨトウ

4.Ⅺ.1988 1♂

<カラスヨトウ亜科>

Apamea sodalis Butler

チャイロカドモンヨトウ

15.Ⅵ.1988 1♂, 7.Ⅸ.1988 1♀,

7.Ⅹ.1988 1♀

Apamea aquila Donzel

アカモクメヨトウ

25.Ⅶ.1988 1♂

Apamea hampsoni Sugi

ネスジシラクモヨトウ

15.Ⅵ.1988 1♀, 18.Ⅵ.1988 1♂2♀,

26.Ⅵ.1988 1♂1♀, 2.Ⅶ.1988 1♂1♀

Apamea commixta Butler

ヒメハガタヨトウ

- 9.VIII.1988 1♂
Leucapamea askoldis Oberthür
 コマエアカシロヨトウ
 5.VIII.1988 1♂
Bambusiphila vulgaris Butler
 ハジマヨトウ
 9.VIII.1988 1♂
Ctenostola aparganoides Bang-Haas
 クシヒゲウスキヨトウ
 22.IX.1988 1♀
Triphaenopsis lucilla Butler
 シロホシキシタヨトウ
 5.IX.1987 1ex., 9.VII.1988 1♀,
 16.VII.1988 1♂, 29.VII.1988 1♂,
 5.VIII.1988 3♂, 20.VIII.1988 1♀,
 1.IX.1988 1♂
Phlogophora aureopuncta Hampson
 モンキアカガネヨトウ
 15.VI.1988 1♂, 7.IX.1988 1♀
Phlogophora illustrata Graeser
 シラオピアカガネヨトウ
 18.VI.1988 1♀, 16.VII.1988 1♀
Euplexia lucipara exotica Strand
 アカガネヨトウ
 9.VIII.1988 2♂
Euplexia angusta Yoshimoto
 ホソバミドリヨトウ
 1.X.1988 2♂, 7.X.1988 1♀
Axylia putris Linnaeus
 モクメヨトウ
 29.VII.1988 1♂, 1.IX.1988 1♀
Dipterygina cupreotincta Sugi
 ウスクロモクメヨトウ
 7.VI.1988 2♀, 18.VI.1988 1♂,
 26.VI.1988 2♂
Dipterygina japonica Leech
 コクロモクメヨトウ
 15.VI.1988 1♀
Pygopteryx suava Staudinger
 ヨスジアカヨトウ
 17.IX.1988 1♂
Athetis lapidea Wileman
 ヒメウスグロヨトウ
 29.VII.1988 1♂, 5.VIII.1988 1♂
Athetis stellata Moore
 ヒメサビスジヨトウ
 9.VIII.1988 1♀, 26.VIII.1988 1♀
Athetis lineosa Moore
 シロモンオビヨトウ
 2.VII.1988 1♂1♀, 16.VII.1988 1♂
Amphipyra monolitha Guenée
 オオシマカラスヨトウ
 12.VIII.1987 1♀, 5.IX.1987 1ex.,
 26.IX.1987 1ex., 25.VII.1988 1♂
Amphipyra livida corvina Motschulsky
 カラスヨトウ
 29.VII.1988 2♂, 7.X.1988 1♂
Amphipyra tripartita Butler
 シロスジカラスヨトウ
 25.VIII.1987 1♂, 1.IX.1988 1♀
Amphipyra schrenckii Ménétriers
 ツマジロカラスヨトウ
 16.VII.1988 1♀, 25.VII.1988 1♂
Amphipyra erebina Butler
 オオウスヅマカラスヨトウ
 25.VIII.1987 1ex., 25.VII.1988 1♂
Orthogonia sera Felder
 ノコメセダカヨトウ
 12.VIII.1987 1♂1♀, 5.IX.1987 1ex.,
 10.IX.1987 1ex., 2.VII.1988 1♂,
 1.X.1988 1♂
Cosmia affinis Linnaeus
 ニレキリガ
 16.VII.1988 1♀, 29.VII.1988 1♀,
 7.X.1988 1♂
Chytonix albonotata Staudinger

- ネグロヨトウ
26.VI.1988 1♂, 2.VII.1988 1♀,
20.VIII.1988 1♂
- Chytonix subalbonotata* Sugi
ホンバネグロヨトウ
7.VI.1988 1♂
- Niphonyx segragata* Butler
チャオビヨトウ
9.VII.1988 1♂1♀, 26.VIII.1988 1♀
- Pyrrhivalva sordina* Butler
マエホシヨトウ
1.IX.1988 1♂, 7.IX.1988 1♀,
22.IX.1988 2♂1♀
- Eucarta arctides* Staudinger
ヒメシマヨトウ
1.IX.1988 1♀
- Eucarta virgo* Treitschke
ウスムラサキヨトウ
26.VI.1988 1♀, 20.VIII.1988 1♀
- Hadjima biguttula* Motschulsky
フタテンヒメヨトウ
9.VII.1988 1♀
- Iambia japonica* Sugi
シロマダラヒメヨトウ
26.VI.1988 1♀, 2.VII.1988 1♀,
9.VIII.1988 1♂, 17.IX.1988 1♀
- Prometopus flavicollis* Leech
キクビヒメヨトウ
9.VII.1988 1♀
- Calloplistria duplicans* Walker
ヒメツマキリヨトウ
29.VII.1988 1♂
- Calloplistria repleta* Walker
マダラツマキリヨトウ
18.VI.1988 1♀, 26.VIII.1988 1♂,
1.IX.1988 1♂1♀
- Sphragifera sigillata* Ménétériès
マルモンシロガ
9.VII.1988 1♂, 16.VII.1988 1♂
- Sphragifera biplaga* Walker
コマルモンシロガ
5.VIII.1988 1♀, 20.VIII.1988 1♂
- <フサヤガ亜科>
Eutelia geyeri Felder
フサヤガ
2.VII.1988 1♂, 16.VII.1988 1♀,
29.VII.1988 1♂, 7.IX.1988 1♂,
- Atacira grabczewskii* Püngeler
ニッコウフサヤガ
2.VII.1988 1♂, 16.VII.1988 1♂
- <キノカワガ亜科>
Iscadia uniformis Inoue & Sugi
ナンキンキノカワガ
10.IX.1987 1♀, 7.IX.1988 1♂,
22.IX.1988 1♀
- Blenina senex* Butler
キノカワガ
9.VII.1988 1♀, 25.VII.1988 1♀,
5.VIII.1988 1♂, 19.X.1988 1♂
- <リングア亜科>
Iragaodes nobilis Staudinger
マエキリングア
16.VII.1988 1♀
- Gelastocera exustra* Butler
クロオビリングア
20.VIII.1988 1♂, 26.VIII.1988 1♀,
1.IX.1988 1♀
- Macrochthonia fervens* Butler
カマフリングア
2.VII.1988 1♂, 20.VIII.1988 2♂
- Hypocoreia conspicua* Leech
カバイロリングア
1.IX.1988 1♂

Clethrophora distincta Leech

ミドリリング

25.VIII.1987 lex., 22.IX.1988 1♂

Pseudoips prasinanus Linnaeus

アオスジアオリング

10.VIII.1987 lex., 26.V.1988 2♂,

25.VII.1988 1♀

Ariolica argentea Butler

ギンボシリング

26.VI.1988 1♀

Gobala argentata Butler

ハイイロリング

26.V.1988 1♂, 5.VIII.1988 1♀

Sinna extrema Walker

アミメリング

16.VII.1988 1♂, 1.IX.1988 1♂

<コヤガ亜科>

Sophta ruficeps subrosea Butler

ウスベニコヤガ

20.VIII.1988 1♀, 17.IX.1988 1♀

Lophoruza pulcherrima Butler

モモイロツマキリコヤガ

1.IX.1988 1♂

Ozura mira Butler

アトキシジコヤガ

20.VIII.1988 1♂

Anterastria atrata Butler

ビロードコヤガ

18.VI.1988 1♀, 9.VIII.1988 1♂

Amyna stellata Butler

サビイロコヤガ

1.X.1988 1♀

<ウワバ亜科>

Abrostola major Dufay

オオマダラウワバ

20.VIII.1988 2♂, 22.IX.1988 1♂

Abrostola pacifica Dufay

ミヤママダラウワバ

7.IX.1988 1♂, 17.IX.1988 1♂

Macdunnoughia purissima Butler

ギンモンシロウワバ

16.V.1988 1♂, 5.VIII.1988 1♂

Diachrysia coreae Inoue & Sugi

リョクモンオオキンウワバ

26.VIII.1988 1♂

Thysanoplusia intermixta Warren

キクキンウワバ

16.VII.1988 1♀, 25.VII.1988 1♂,

1.IX.1988 1♂

Cthenoplusia agnata Staudinger

ミツモンキンウワバ

5.VIII.1988 1♀, 7.IX.1988 1♂1♀

Cthenoplusia ichinosei Dufay

ニシキンウワバ

29.VII.1988 1♂

Chrysodeixis eriosoma Doubleday

イチジクキンウワバ

7.X.1988 1♂

Anadevidia hebetata Butler

モモイロキンウワバ

5.IX.1987 lex., 20.VIII.1988 1♂

<シタバガ亜科>

Catocala fraxini jezoensis Matsumura

ムラサキシタバ

7.X.1988 1♂

Catocala electa zalnunna Butler

ベニシタバ

10.IX.1987 1♂, 9.VIII.1988 1♂,

1.IX.1988 1♂1♀, 7.IX.1988 1♂1♀,

1.X.1988 1♂

Catocala dula Bremer

オニベニシタバ

5.VIII.1988 1♂

Catocala nivea Butler

シロシタバ

26.IX.1987 5exs.

Catocala nubila Butler

ゴマシオキシタバ

26.IX.1987 1♀, 7.X.1988 1♀

Catocala patala Felder

キシタバ

25.VIII.1987 2♂, 5.IX.1987 3exs.,

5.VIII.1988 1♂, 20.VIII.1988 1♂,

7.X.1988 1♀

Dysgonia maturata Walker

ムラサキアシブトクチバ

26.IX.1987 1ex., 7.IX.1988 1♂,

7.X.1988 1♀

Mocis annetta Butler

ウンモンクチバ

12.VIII.1987 2♀, 18.VI.1988 1♀,

26.VI.1988 1♀

Ercheia niveostrigata Warren

モンシロムラサキクチバ

12.VIII.1987 1ex., 16.VII.1988 1♀,

5.VIII.1988 2exs.

Ercheia umbrossa Butler

モンムラサキクチバ

28.IV.1988 1♀, 29.VII.1988 1♂,

5.VIII.1988 1ex.

Lagoptera juno Dalman

ムクゲコノハ

18.VI.1988 1♀, 2.VII.1988 1♂

Arcte coerulea Guenée

フクラスズメ

26.IX.1987 1ex., 18.IV.1988 1♀

Hypopyra vespertilio Fabricius

カギバトモエ

12.VIII.1987 1♂

Spirama retorta Clerck

オスグロトモエ

12.VIII.1987 1♂, 7.VI.1988 1♂

Spirama helicina Hübner

ハグルマトモエ

11.VIII.1987 3♀

Metopta rectifasciata Ménétriers

シロスジトモエ

12.VIII.1987 1♂1♀, 28.IV.1988 1♂,

26.V.1988 1♀

Erebus ephesperis Hübner

オオトモエ

11.VIII.1987 1♂2♀

<クチバ亜科>

Lygephila vulcanica Butler

アサマクビグロクチバ

5.IX.1987 2exs., 26.VIII.1988 1♂,

1.IX.1988 1♀

Lygephila recta Bremer

ヒメクビグロクチバ

28.IV.1988 1♀, 29.IV.1988 1♂

Anomis mesogona Walker

アカキリバ

7.X.1988 1♀

Scoliopteryx libatrix Linnaeus

ハガタキリバ

20.VIII.1988 1♂

Plusiodonta casta Butler

マダラエグリバ

9.VIII.1988 1♂, 20.VIII.1988 2♀

Calyptra gruesa Draudt

オオエグリバ

10.VIII.1987 2exs., 12.VIII.1987 1♂

Oraesia excavata Butler

アカエグリバ

26.VI.1988 1♂, 16.VII.1988 1♂

Adris tyrannus amurensis Staudinger

アケビコノハ

25.VIII.1987 2exs.

Dimumma deponens Walker

ウスツマクチバ

15.VI.1988 1♂, 16.VII.1988 1♀

Erygia apicalis Guenée

アカテンクチバ

16.V.1988 1♀, 26.V.1988 1♂,

9.VII.1988 2♂, 29.VII.1988 1♂,

5.VIII.1988 1♂, 9.VIII.1988 2♂,

20.VIII.1988 1♂

Synpoides picta Butler

シラフクチバ

9.VII.1988 2♂

Synpoides fumosa Butler

クロシラフクチバ

11.VII.1987 1♀, 26.IX.1987 2exs.,

29.VII.1988 1♂

Synpoides hercules Butler

アヤシラフクチバ(アヤクチバ)

9.VII.1988 1♂

Hypersynpoides astrigera Butler

シロテンクチバ(ヒメアヤクチバ)

16.V.1988 2♂, 26.V.1988 2♀,

7.VI.1988 1♂

Daddala lucila Butler

ハガクチバ

12.VIII.1987 1♂, 5.IX.1987 1ex.,

1.IX.1988 1♂, 7.X.1988 1♂,

Briceia pertendens fraterna Moore

ウスムラサキクチバ

25.VII.1988 1♂, 5.VIII.1988 1♂

Arytrura musculus Ménétrière

ソトジロツマキリアツバ

9.VII.1988 1♀

Atuntsea kogii Sugi

クロシモフリアツバ

20.VIII.1988 2♂

Pangrapta indentalis Leech

ムラサキツマキリアツバ

18.VI.1988 1♂

Pangrapta pseudalbistigma Yoshimoto

ツマジロツマキリアツバ

9.VIII.1988 1♀

Pangrapta obscurata Butler

リンゴツマキリアツバ

18.VI.1988 1♂

Stenograpta stenograpta Sugi

ホソツマキリアツバ

7.VI.1988 1♀, 9.VIII.1988 1♀,

20.VIII.1988 1♂

Amphitrogia amphidecta Butler

シロテンツマキリツバ

18.VI.1988 1♂, 26.VI.1988 1♂

Diomea junkowskii Oberthür

マエヘリモンアツバ

18.VI.1988 1♀

Diomea discisigna Sugi

ヨツモンムラサキアツバ

2.VII.1988 1♂, 16.VII.1988 1♀,

25.VII.1988 1♂

Scedopla diffusa Sugi

ウスマダラアツバ

26.VI.1988 1♀

Britha inambitiosa Leech

チャイロアツバ

25.VII.1988 1♂

Colobochyla salicalis cinerea Butler

キンスジアツバ

5.VIII.1988 1♀

Rhesala imparata Walker

マエテンアツバ

5.VIII.1988 1♂

<アツバ亜科>

Harita belinda Butler

ナカジロアツバ

19.X.1988 1♂

Hypena trigonalis Guenée

タイワンキシタアツバ

5.VIII.1988 1♂

Hypena amica Butler

クロキシタアツバ

25.VII.1988 1♂, 9.VIII.1988 2♂,

1.IX.1988 1♀, 22.IX.1988 1♀

Hypena lignealis Walker

オスグロホソバアツバ

5.VIII.1988 1♀

Hypena tristalis Lederer

ミツボシアツバ

16.V.1988 1♀, 29.VII.1988 1♂,

1.X.1988 1♂, 7.X.1988 1♀

Hypena narratalis Walker

ムラサキミツボシアツバ

20.VIII.1988 1♂, 7.X.1988 1♀

Bomolocha stygiana Butler

ヤマガタアツバ

16.V.1988 1♀, 26.V.1988 2♀,

7.VI.1988 1♂, 2.VII.1988 1♂

Bomolocha semialbata Sugi

ミヤマソトジロアツバ

1.IX.1988 1♀

Bomolocha perspicua Leech

ウスツマアツバ

26.V.1988 1♂, 5.VIII.1988 2♂,

20.VIII.1988 1♂

Bomolocha nigrobasalis Herz

ホシムラサキアツバ

7.VI.1988 1♀, 18.VI.1988 1♀,

29.VII.1988 1♂, 5.VIII.1988 1♂

Bomolocha melanica Sugi

ムラクモアツバ

26.V.1988 1♀, 20.VIII.1988 1♀

<クルマアツバ亜科>

Adrapsa simplex Butler

シラナミクロアツバ

16.VII.1988 1♂, 25.VII.1988 1♂

Hydrillodes lentalis Guenée

ソトウスグロアツバ

17.IX.1988 1♂, 7.X.1988 1♂

Edessena gentiusalis Walker

マルシラホシアツバ

12.VIII.1987 1♂

Edessena hamada C & R.Felder

オオシラホシアツバ

25.VIII.1987 lex., 15.VI.1988 1♂

Hadennia incongruens Butler

ハナマガリアツバ

18.VI.1988 1♂1♀, 2.VII.1988 1♂1♀,

17.IX.1988 1♂

Cidaripalura gladiata Butler

ハナオイアツバ

29.VII.1988 1♂

Idia curvipalpis Butler

シロホシクロアツバ

9.VIII.1988 1♂

Paracolax albinotata Butler

シロモンアツバ

26.V.1988 1♀

Paracolax trilinealis Bremer

ミスジアツバ

18.VI.1988 1♀, 5.VIII.1988 1♀

Paracolax preyri Butler

シロテンムラサキアツバ

17.IX.1988 1♂

Bertula spacoalis Walker

シロスジアツバ

1.IX.1988 1♂

Simplicia niphona Butler

オオアカマエアツバ

26.IX.1987 lex., 25.VII.1988 1♀

Zanclognatha lunalis Scopoli

コブヒゲアツバ

1.X.1988 1♂

Zanclognatha lilacina Butler

ウスイロアツバ

26.VI.1988 1♂, 2.VII.1988 2♀

Zanclognatha fumosa Butler

ウスグロアツバ

22.IX.1988 1♀

Zanclognatha tarsipennalis Treitschke

ヒメコブヒゲアツバ

26.VI.1988 1♂

Zanclognatha subgriseola Sugi

ヒメツマオビアツバ

26.VI.1988 1♀, 26.VII.1988 1♂,

1.IX.1988 1♂, 17.IX.1988 1♂

Zanclognatha helva Butler

キイロアツバ

15.VI.1988 1♂, 9.VIII.1988 1♀

Herminia dolosa Butler

フシキアツバ

1.X.1988 1♂

Herminia innocens Butler

シラナミアツバ

22.IX.1988 1♂

Herminia tarsicrinalis Knoch

トビスジアツバ

7.IX.1988 1♂

Herminia arenosa Butler

ウスキミスジアツバ

7.IX.1988 1♂, 17.IX.1988 1♂1♀

Hipoena fractalis Guenée

オオシラナミアツバ

17.IX.1988 1♂, 1.X.1988 1♀

トラガ科

Sarbanissa venusta Leech

ベニモントラガ

29.VII.1988 1♀

Asteropetes noctuina Butler

ヒメトラガ

15.VI.1988 1♂, 26.VI.1988 1♂

Sarbanissa subflava Moore

トビイロトラガ

9.VIII.1988 1♂

以上、ヤガ科で208種、トラガ科で3種を確認できた。このうち数種は県下初記録の可能性があり、これについては目下データ整理中であり、別の機会に発表したい。なお、種名や配列は講談社の日本産蛾類大図鑑によった。

ヤガ科については遊磨正秀氏が215種を報告している^{1) 2)}が、重複しているのは125種である。遊磨氏のリストにあがっているもので確認できなかった種は、スギタニキリガ、クロヤガ、キクセダカモクメ、クロフケンモンなど90種、また、新たに確認できた種は、ムラサキシタバ、ヨスジアカヨトウ、カラフトゴマケンモン、ムラサキミツボシキリガ、ミドリリングなど83種である。合計すれば298種がこの地域で確認されたことになる。

周辺の自然環境は、遊磨氏が採集した1974年頃のことを知らないので比較できないが、国有林に囲まれた地域なので変化は少ないと推察できる。

採集データに共通種が少ないのは、採集を重点的に行った季節の差によるかもしれない。採集できるものは光源に飛来する個体に限られ、その地域に生息する全ての種に数回の採集で遭遇できるわけもないので、当地周辺にはまだまだ未知の種が多く生息するものと思われる。さらに調査を重ねる必要がある。次回は、ヤガ科、トラガ科以外の種について報告したい。

<参考文献>

- 1) 遊磨正秀(1975)引原ダム(宍粟郡波賀町)のヤガ類(I) きべりはむし3(1):10-14
- 2) 遊磨正秀(1979)宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類について(II) きべりはむし7(2):2-16

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

ウスイロコノマチョウの飼育記録

近 藤 伸 一

ウスイロコノマチョウはアフリカ、東南アジア、オーストラリア北部、フィジー、タヒチと広い地域に生息する熱帯性のチョウである。日本が分布の北限で、奄美大島まで分布し、それより北の地域では土着が確認されていない。

九州以北の日本各地で例年ウスイロコノマチョウの成虫や幼虫が採集されているが、越冬後と思われる春の採集例は九州、四国に少数記録されているだけで、ほとんどの採集記録は7月以降のものである。

南から移動してきた個体と移動個体の子孫がその年の夏から秋にかけて発生し、冬季の寒さに耐えることが出来ず全て死滅する・・・というパターンが、毎年繰り返されていると考えるのが妥当であろう。

西日本では1987年から暖冬が続き、ここ数年は冬季の気温が異常なほど高い。ナガサキアゲハ、クロコノマチョウ、イシガケチョウと南の蝶が相次いで分布を北に拡大しているのをみると、ウスイロコノマチョウも近畿地方まで分布を拡大する可能性は否定出来ない。

ウスイロコノマチョウの採集個体数は近年急増している。兵庫県での採集記録を見ると、1955年から1980年の間にわずか10例の採集記録しかなかったが、1991年には三木市内で17頭が採集される等、1990年頃から採集記録は急増していた。

特に1993年は近畿地方で大発生した年で、例えば京都府木津川では8月下旬から9月にかけて

100頭以上が採集されたと聞くと、神戸市西区伊川谷町の谷間では確認出来ただけでも8月11日から11月3日にかけて18頭が採集されている。

9月22日神戸市中央区下山手通にあるビル内に

迷い込んできた本種(夏型♀)を飼育したところ9月23日から10月13日にかけて産卵し、筆者及び友人が各地で飼育して多数の羽化をみた。

神戸市西区岩岡町での幼虫及び成虫の飼育記録を紹介し、ウスイロコノマチョウの近畿地方での越冬の可能性について検討した。

本文をまとめるにあたり、飼育記録、採集記録、その他貴重な情報を賜った浅田 卓、永橋嘉之、広畑政巳、松岡善一、森口 紀、森下泰治、山下剛史、山田裕司の各氏にお礼申し上げる。

1 飼 育 記 録

1 産 卵

30cm×20cm×20cmの透明な水槽でススキ、アキノエノコログサをいれて採集した♀を飼育し、1日に2時間ほど日光の射し込む部屋で飼育した。

餌は1日1回カルピスを薄めたものを与えた。9月23日ススキの葉に11個の卵を3列にきれいに並べて産みつけ、翌日から毎日のようにススキ、アキノエノコログサに産卵し、9月23日から10月13日にかけて208卵を産卵して10月18日に死亡した。

2 幼虫の飼育

(1) 食餌植物について

ウスイロコノマチョウの幼虫はイネ科植物を食餌植物としており、これまでにイネ、ダンチク、オヒシバ、エノコログサ、メヒシバ、コメヒシバ、スズメノヒエ、チガヤ、ススキ、トキワススキ、

ジュズダマ、モロコシ（栽培）、サトウキビ、メダケなど22種の記録がある。

今回は幼虫をチヂミザサ、イヌビエ、アキノエノコログサ（以上イネ科）とカヤツリグサ科の1種で飼育したが、チヂミザサ、アキノエノコログサで飼育したものは順調に成長し、羽化した。イヌビエでは4令まで飼育したが、イヌビエが枯れはじめて確保出来なくなり中断した。カヤツリグサ科の1種で飼育したものは9割が1令のまま死亡し、3令までにすべての幼虫が死亡した。

(2) 気温差による幼虫の成長の比較

表1は飼育場所を南向きの部屋と北向きの部屋に分けて飼育した記録である。アキノエノコログサを餌とし、毎日午前0時と7時に飼育場所の気温を測定した。

表1 ウスイロコノマチョウの飼育例

飼育場所	卵 期 間			幼 虫 期 間										幼虫期 総日数	蛹 期 間		全 日 数
	産卵日	孵化日	日数	Ⅰ 齢		Ⅱ 齢		Ⅲ 齢		Ⅳ 齢		Ⅴ 齢			羽化日	日数	
				Ⅱ眠起	日数	Ⅲ眠起	日数	Ⅳ眠起	日数	Ⅴ眠起	日数	蛹 化	日数				
南	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 19	3	10. 25	6	10. 31	6	11. 12	12	30	12. 4	22	56
	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 20	4	10. 26	6	11. 1	6	11. 14	13	36	12. 6	22	62
	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 20	4	10. 26	6	11. 3	8	11. 15	12	37	12. 7	22	63
	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 20	4	10. 26	6	11. 3	8	11. 17	14	35	12. 10	23	62
	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 20	4	10. 26	6	11. 3	8	11. 17	14	35	12. 7	20	59
	10. 9	10. 13	4	10. 16	3	10. 20	4	10. 26	6	11. 3	8	11. 17	14	35	12. 6	19	58
北	10. 7	10. 11	4	10. 16	5	10. 23	7	10. 31	8	11. 10	10	12. 6	26	56	1. 6	31	91
気温 南	10月 9日～31日 最高24° C、最低17° C、平均20.2° C 11月 1日～25日 最高24° C、最低13° C、平均16.6° C			11月25日以降は全て南に移動させ気温が低くなれば暖房を入れた。（気温の測定なし）													
気温 北	10月 9日～31日 最高20° C、最低15° C、平均17.8° C 11月 1日～25日 最高19° C、最低14° C、平均17.2° C																

注1 飼育場所の南、北とは南向きの部屋、北向きの部屋で、2ヶ所に分けて飼育した。

注2 気温測定は午前0時と午前7時の2回で行った。（最も温度差のある午後の測定は出来なかった）

注3 午後の気温測定を行っていないため南と北では測定した気温差以上の気温差がある。

注4 アキノエノコログサを食草として飼育した。

10月中は南の気温が北より2℃以上高く、11月1日～25日の間も南が北より若干高かった。気温差の最も大きい時間帯（午後1時頃）は測定していないので実際は測定値以上の気温差があったものと思われる。

11月25日以降は北の気温不足を恐れて全て南の同じ条件で飼育し、気温が低くなれば暖房を入れた。（気温の測定なし）

南で飼育したものと北では幼虫期で平均21日の差あり、温度条件が幼虫の成長に大きな影響を与えるようである。

(3) 幼虫の野外の飼育

10月上旬に鉢に植栽したアキノエノコログサに1令幼虫を20匹放したが3令幼虫3匹を確認したのを最後に全て死亡した。（最高平均気温20.5℃、

最低12.8℃、平均16.7℃・気温測定値は近隣の明石) 当地方の10月の気温下では幼虫は成長出来ないようである。

3 成虫の野外の飼育

12月10日に羽化した2♂2♀を水槽に入れ、直接雨があたらない南向きのベランダで飼育した。

乾燥し過ぎないように水槽内に週に1回霧吹きで水を吹きかけた。

成虫は気温が高くなると活動し、1♀が2月20日まで生存した。

<観察記録>

12月11日～12月23日 (1.5℃～11℃)

・ 12.23 11:00 (6℃)

1♂1♀が倒れており、死亡したもの
と思い、室内に持ち込む (18℃)

1時間後に飛び立つ。低温下では仮死
状態になっている様子。

12月23日～12月25日 (2℃～19℃)

・ 12.25 12:40 (15℃)

水槽に日光が当たり気温上昇、4頭と
も移動したり翅を開閉する等活動

12月26日～12月30日 (2℃～16℃)

・ 12.26 12:00 (15℃)

日光が当たる位置に集まり盛んに活動

・ 12.30 12:00 (15℃)

日光が当たる位置に集まっている。
霧吹きで水をかけると盛んに口吻を伸
ばして吸水。

15:00 (13℃)

静止

12月31日～1月2日 (1℃～16℃)

・ 12.31 15:00 (8℃)

日光が当たっているが昨日と同じ位置
で静止

・ 1.1 2:00 (5℃)

同じ位置で静止

9:00 (5℃)

1♂が倒れ残りの3頭は同じ位置で静
止

13:00 (12℃)

1♂1♀が倒れ残りの2頭は移動して
いる

・ 1.2 13:00 (14℃)

1♂1♀が倒れたまま残りの2頭は活
動

22:00 (6℃)

1♂1♀が倒れたまま残りの2頭は静
止

1月3日～1月8日 (2℃～16℃)

・ 1.3 10:00 (12℃)

4頭とも同じ状態

・ 1.8 13:00 (13℃)

倒れていた1♂1♀は死亡。♂は柔ら
かいが♀は固くなっている。

残りの1♂1♀は水をかけると口吻を
伸ばして吸水。

1月9日～1月16日 (-1℃～20℃)

・ 1.16. 13:00 (12℃)

♀は仮死状態、♂は地面にとまってい
る。水をかける2頭とも翅を開閉。

1月17日～1月22日 (1℃～14℃)

・ 1.22. 14:00 (8℃)

1月16日の夜と同じ位置

1月23日～1月29日 (1℃～14℃)

・ 1.29. 12:00 (12℃)

♀は日光が当たっている場所で翅を開
閉。♂は1月16日の夜と同じ位置

・ 2.2. 22:00 (6℃)

♂は固くなって死亡、♀は静止

・ 2.12. 22:00 (2℃)

昨日から積雪、♀仮死状態

・ 2.20. 12:00 (8℃)

♀死亡

II 幼虫の顔面の色彩変異

幼虫の顔面の色彩は個体ごとに黒色の発達の程度が異なり、黒色から緑色のものまで著しい変化があり令数を重ねる毎に黒色部が退化する傾向が強くなる。

3令：黒色が発達（黒色型）80%

3令：（中間型）20%

3令：未発達（緑色型）0%

4令：黒色が発達（黒色型）30%

4令：（中間型）30%

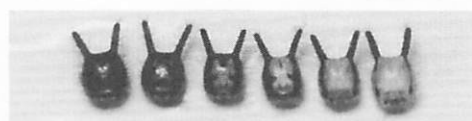
4令：未発達（緑色型）40%

終令：黒色が発達（黒色型）10%

終令：（中間型）25%

終令：未発達（緑色型）65%

図1 4令幼虫の顔面の色彩変異パターン



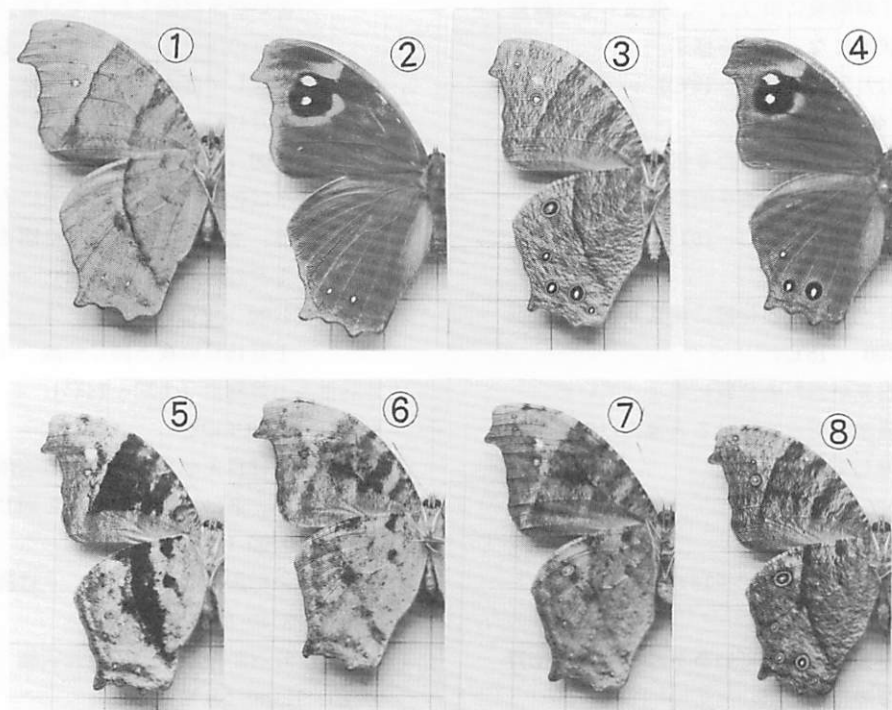
黒色型 中間型 緑色型

III 成虫の斑紋の変異

成虫の斑紋には飼育場所や時期によって図2のように秋型のものと秋夏の間中型のものが色々なパターンで表れた。

早い時期に羽化（11月13日～12月4日）したものは全て中間型が現れ、遅い時期（12月4日～1月6日）のものはほとんどが秋型であった。

図2 ウスイロコノマチョウの斑紋の変異



①秋型♀裏（12月7日羽化）②同表 ③中間型♀裏（11月19日羽化）④同表
⑤秋型♂裏（12月7日羽化）⑥秋型♂裏（12月7日羽化）⑦秋型♂裏（12月7日羽化）
⑧中間型♂裏（12月6日羽化）

IV ウスイロコノマチョウの兵庫県での越冬の可能性について

幼虫、蛹の時期は気温の影響を強く受け、16℃を割ると成長は悪い。野外では温度差が激しいためか、神戸市の10月の気温下(平均気温16℃)でも成長出来なかった。幼虫での越冬の可能性はない。野外で11月3日に成虫(♀)が採集されているが10月以前に羽化した個体であろう。

成虫は低温に比較的強く、冬期でも厳しい寒さにも耐えて2カ月以上生存した。しかし休眠することはなく、気温が上昇すると活動した。(12℃で直射日光が当たる状態)冬期の活動で成虫は相当消耗したはずである。

成虫での越冬の可能性を考えた場合、成虫が秋

の活動可能な時間帯に栄養を蓄えることが出来、冬期は気温が極端に低下せず、成虫が活動出来ない程度に温暖な環境が求められる。しかしこのような環境を当地方の自然界に求めることは困難と思われる。人工的な環境下での越冬の可能性は残されているが。

<参考文献>

- 福田晴夫・浜 栄一ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑(IV) 保育社
 広畑正巳(1982) 兵庫県産蝶類分布資料(2) てんとうむしNo.8:32
 永橋嘉之(1992) ウスイロコノマチョウを追って 因幡のむし No.27:7-16

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

波賀町坂の谷林道で得られた数種の蛾

高島 昭

少し前であるが、1988年8月26日に波賀町坂の谷林道で夜間採集を試みた。このときはヒメオオクワガタが目的であったが、興味深い蛾が数種得られたので報告する。現場は、氷ノ山南方の三ノ丸山南麓で、養父郡大屋町、鳥取県若桜町との境界に近く、標高約1,200mの高原状の地形である。周囲は典型的なブナ・チシマザサ群落である。

1. *Triphaenopsis lucilla* Butler

エゾキシタヨトウ 1♂

県下では他に温泉町ノ山¹⁾、川西市妙見山²⁾で各1例記録がある。

2. *Chasminodes sugii* Kononenko

クロハナギンガ 1♂

関宮町氷ノ山で1954年に採集された記録³⁾がこれまで唯一のものと思われる。

3. *Catocala connexa* Butler

ヨシノキシタバ 1♀

ブナ林に固有な種であるため、この付近一帯に広く生息すると思われる。これまで関宮町氷ノ山(地蔵堂付近)⁴⁾に古い記録が1例ある。

4. *Zanclognatha reticulatis* Leech

アミメアツバ 1♂

ブナ林に固有な種で、県下初記録と思われる。

5. *Proteostrenia pica* Wileman

モンキクロエダシャク 1♂

これまでに兵庫県産の記録がないと思われる。

<参考文献>

- 1) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1) IRATSUME10:30-37
 2) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢の蛾Ⅲ 妙見山・夏の蛾(1) *C r u d e* 25:15-22
 3) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物3(1/2):3-6
 4) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物3(3):121-123
 (TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

諏訪山公園の蝶

山口 福男

諏訪山公園は神戸市のほぼ中央に所在する都市公園で面積は5.2ヘクタールあるが平坦部はごくわずかで大部分は六甲山に続く断層崖の急斜面に設定されている。公園の植生はアカマツを主体とした二次林であるが、マツクイムシによるマツの衰退が激しく、砂防用に植栽されたニセアカシアや公園樹としてのサクラ（ソメイヨシノ）・イロハカエデなどが目立つ。造成されてから、かなりの年数を経過しているため樹齢が五十年を越す木が多い。このような植生からみると蝶の生息環境として好適とは考え難い。しかし公園南部の市街地に接する所に緑の相談所が設置されて、小規模な花壇であるが年中花の絶えることがない。蝶は相談所の花を重要な蜜源としており、公園に飛来する数も種類も意外に多い。筆者は諏訪山公園緑の相談所に1985年から相談員として勤務の傍ら蝶の観察を続け十年を経過した。そこで過去十年の結果をここに纏めて報告する。

<アゲハチョウ科>

アゲハチョウ 4月中旬から5月中旬にかけて春型が、6月中旬頃から夏型が現れはじめ、11月上旬、年によっては中旬頃まで飛来する。風の少ない晴れた日中にはいつでも数匹が訪花している。

発生源は市街地のミカン科の植物で、鉢植えの温州ミカンやサンショウにも例外なく幼虫が発見できる。

クロアゲハ アゲハチョウより2週間ほど遅れて5月上旬から下旬まで春型が出現し、7月中旬から夏型となって10月中旬頃まで飛来する。アゲハチョウに比べると個体数は遙かに少ない。

飛来数をカウントしてみたが、同一個体がかな

り長時間公園内に滞在するので目視だけでは正確に測定できない。発生量の年次変動は前種同様少ない。発生源は恐らく市街地のミカン科植物が主体と思われるが、山中のカラスサンショウなどの野生植物での発生も重要かも知れない。

モンキアゲハ クロアゲハの最盛期を迎える5月中旬頃第一回成虫が飛来するが、発生が前種より遅いのではなく、個体数が少ないために目撃のチャンスが少ないためであろう。7月中旬以降の梅雨明けの晴天日に第2回成虫が発生するのは前種と同じで、8月下旬から10月半ばまで第3回とみられる成虫が飛来する。これらの夏型の成虫はかなり少なく最盛期と思われる時期でも週に1～2匹にすぎない。本種は市街地になじみ難い蝶のようで、ミカン類よりもカラスサンショウを好むのを見てもうなずける。当公園に飛来するのはかなりの遠隔地で育った個体かも知れない。

ナガサキアゲハ 神戸市には1975年頃から発生し始め、近頃ではごく普通の黒いアゲハチョウとなっている。初発生はクロアゲハよりも若干遅れるような感じがするが、第2回成虫の発生は大差はない。夏型の飛来は10月半ばまで続く。個体数はクロアゲハ程度であるが日によってはこれより多いこともある。栽培ミカンを好むことから発生源は市街地にあると推定される。

カラスアゲハ もともと市街地に姿をみせることの少ない蝶で、年に数回飛来するだけである。

これまでに春型を目撃するチャンスに恵まれていない。食樹が主に野生のミカン科植物であることと平地よりも山地が好きな性質が市街地に馴染めない理由かもしれない。

ミヤマカラスアゲハ 神戸市内では10年ほど前まで迷蝶のあつかいであったが、近年では毎年のように目撃されたり採集されるようになっている。

当公園でも1993年9月に1匹の雄が飛来してラントナで吸蜜した。

キアゲハ 当公園への飛来の少ないアゲハで、夏から秋にかけて数回見かける程度。公園内のセリ科植物の観察を続けているが幼虫は未だに確認できていない。近郊ではアゲハチョウについてよく見る蝶なのに、当公園に住みつけない理由がよくわからない。

アオスジアゲハ 第1回成虫は早い年には4月下旬頃から、遅くとも5月上旬には飛来し始め、6月に入ると一時姿を消すが、7月から夏型の第2回成虫が発生し、その後10月下旬頃までとぎれなく飛来する。発生量は平年であればアゲハチョウと同じで、風の弱い晴天の日中にはいつでも花壇で吸蜜するのが見られる。しかし年次変動があるようで、1993年から94年にかけて飛来数が目立って少なく、飛来をみない日さえあった。発生源は公園内にもありクスノキに多くの幼虫が見られる。なお当公園では5月中旬頃に、前翅の中室に青斑の現れるエサキ型が毎年飛来する。

<シロチョウ科>

モンシロチョウ 3月から11月まで途切れなく飛来する。公園内の食草は必ずしも豊富とはいえないが個体数は多い。成虫の飛翔力からみてかなり遠隔地からも飛来しているのであろう。

スジグロシロチョウ 個体数は少なく、6月に発生する第2回成虫が飛来するだけで、この現象は毎年のものである。公園内に発生源がなく隣接の山地から飛来すると考えられる。公園に飛来した蝶は数日滞在することが多い。

モンキチョウ 近郊にごく普通の本種が意外なほど少なく、4月から10月の間に数回見るだけに

過ぎない。しかも、訪花吸蜜するとあわただしく飛び去る。公園内には食草となるマメ科植物が少ないうえに、市街地になじめない本質のせいかも知れない。

キチョウ 毎日というわけではないが、ほぼ周年にわたって姿を見せている。相談所に敷地内で越冬すると冬でも暖かい日に飛ぶのをみることができる。公園内のネムノキで育つのか、他から飛来するのかは不明。飛来個体は数日間滞在することが多い。

ツマグロキチョウ 10月に飛来することがあるが、これまで公園内での越冬は確認していない。

飛来した蝶はせいぜい1日位しか滞在しない。夏型の成虫も食草のカワラケツメイも見たことがないので、発生源はかなり遠いと推定される。

ツマキチョウ 過去10年間に3回観察できた。

花壇のハナナやハボタンの花で吸蜜が終わるとすぐに飛び去り滞在することはなかった。発生源は遠いと推定される。

<シジミチョウ科>

ムラサキシジミ 6月から12月までの間に連続して発生しているのであろうが、秋になるまで見ることは少ない。晩秋になると花壇に訪れるので観察の機会が多くなる。公園内のアラカシで育つのを確認している。発生量の年次変動はかなりあるが、飛来を見ない年はなかった。

ウラゴマダラシジミ 1985年6月にイボタノキに訪花しているのが観察できたのが唯一の記録である。六甲山系には発生する所が多いので、そこから飛来したのであろう。公園内には食樹があるので定着の可能性があると考え観察を続けているが、その後一度も飛来を見ていない。

アカシジミ 5月中旬に姿をみせた年(1992)もあるが、下旬から発生するのが普通のものである。公園内には食樹となるアベマキやコナラがあ

り、生息環境として条件がそろっていると思われるが意外に少ない。発生の多い年でも数匹見る程度で、少ない年には見る機会がないことがある。

トラフシジミ 公園内で発生しているのか、通過するだけなのかは不明。6月に1～2回飛来するのを見るだけで、年によっては出会えないこともある。

ベニシジミ 3月から11月まで連続して発生するが、近郊の平地に比べるとはるかに少ない。

原因として食草の乏しさが第一に考えられる。

ウラナシジミ 8月中旬頃から目に付くようになり11月末まで花壇での常連となる。公園内には餌となるマメ科植物は少ないので、発生源は遠い所と思われる。

ヤマトシジミ 3月から11月まで晴れた日にはいつでも見られる。食草のカタバミのあるところには必ずと言っていいほど活動している。

ルリシジミ 3月中旬頃から発生し始め11月まで続くが個体数は少ない。第1回と第2回成虫はよく目につくが、その後は発生量が少ないこともあって観察が出来ていない。公園内で発生していると思われるが、これも確認していない。

<ウラギンシジミチョウ科>

ウラギンシジミ 秋に入ってから姿を見ることが多く、5～8月に飛来することは少ない。

公園内には餌となるフジが存在するが、ここで発生するより遠くから飛来する個体の方が主力のように考えられる。飛来数の年次変動は大きく、1987・88年の秋に多く飛来したが、1993・94年は数匹みただけだった。

<マダラチョウ科>

アサギマダラ 過去10年間に飛来を確認したのはわずかに3回だけで、1987年6月、91年10月、93年10月であった。公園内には餌となるガガイモ

科の植物は自生していないので、本種は訪花するし通過するだけである。飛来しても滞在時間は短い。

<タテハチョウ科>

メスグロヒョウモン 1994年6月に雄成虫が飛来した。六甲山系では時々見るがあるので、そのうち来ると予期していた。訪花し吸蜜した後、滞在することなく飛び去った。当公園には餌となるスミレは少なく、発生地とはなり難い。

ミドリヒョウモン 神戸市では十数年前頃から10月に入ると上中旬にわたり、鱗粉のはげ落ちた成虫が多数飛来するようになっていて、無風の晴天の日には当公園の花壇にモンシロチョウ並みに常時吸蜜するのを見ることが出来る。市内全域でこのような現象があるが、このおびただしい蝶が何処で発生し飛来するのか見当がつかない。

ツマグロヒョウモン 市内では1980年代から目立つようになった蝶で、当公園には6月から11月の間に飛来する。個体数は8月を過ぎる頃から増加し、10月が最高となる。飛来した蝶は滞在することが多く、秋には数日間に及ぶことがある。公園内の花壇でパンジーを食っている幼虫を見たことがあるが、発生源となる程の量ではない。発生量の年次変動はかなりある。

アサマイチモンジ 六甲山中で発生したのが飛来することがあるが、滞在することなく訪花後すぐに飛び去る。過去10年間に観察したのは4回だけで、いずれも5月末から6月始めであった。

コミスジ 初夏から晩秋まで、ごく普通に見られた蝶であったが、1980年代になってから気がついたのだが、めっきり少なくなっている。当公園での飛来数は年に数匹にすぎない。

ミスジチョウ 1991年と92年の、いずれも6月に飛来を確認した。もっと多いかも知れないが、公園内に多発するホシミスジとまぎらわしく、飛

翔中のを判別するのは大変難しいので見逃している可能性が高い。飛来した蝶は数時間滞在し、イロハカエデの樹上を巡回するのを見たので産卵の可能性が考えられたが越冬幼虫は確認できなかった。

ホシミスジ 1980年代から市内で増加した種類で、当公園では5月末から11月末まで常時見られる。越冬幼虫はコデマリに多く、ついでシジミバナでユキヤナギには少ない。発生量の年次変動は少ない。

キタテハ 夏型の飛来は少なく、秋型の成虫が10月になってから目立ち始める。12月まで花壇に訪れているが、その後は姿を見せることは少ない。

当公園内で食草のカナムグラを見かけないので、発生地は裏山であろう。

ヒメアカタテハ 前種と同じように秋になってから飛来することが多く、春から夏までの間に見かけることは少ない。飛来数の年次変動は大きくない。公園内には食草となる植物は十分に存在するが、未だに幼虫は確認できていない。

アカタテハ 早春の暖かい日に越冬成虫が飛び出してくることがあるが、毎年とはかぎらない。

春以降もたまに飛来するのを目撃する位で、個体数は少ないようである。カラムシやヤマオコに幼虫がつずった葉を見ることがあるので、当公園でも少数ながら発生している。

ルリタテハ 秋に飛来した個体が公園内で越冬することがあるが、発生が続いた年は一度もなかった。夏まで姿を見せることは殆どなく、公園内に植栽されたホトギス類が幼虫に食害されたことは10年間一度もなかった。

コムラサキ 本種も個体数が少ない蝶である。

8月の末から9月にかけて1～2回飛来するだけである。飛来しても通路で吸水する程度で、滞在することなく飛び去る。公園には餌のヤナギ類

が少ないことが生息に適さない原因の一つであろう。

ゴマダラチョウ 幼虫の餌のエノキがあり、成虫の栄養源としての樹液もあるのに個体数が少ない。当公園内で継続して発生しているとは考え難い。毎年梅雨明けとなる7月中頃に姿を見せてしばらく滞在するが、いつも1匹だけで2匹以上の数を観察したことがない。

ヒオドシチョウ 桜の満開のころ、越冬成虫がモモやソメイヨシノの花を訪れているが、幼虫の生育歩留まりはよくなく、過去10年の間一度も多発したことはない。6月には羽化したばかりの成虫が1～2匹飛来する。

オオムラサキ 1990年と93年の、いずれも8月上旬に翅のすり切れた雌が飛来している。公園内のエノキに産卵したかと期待したが次世代の発生は無かったようである。数キロメートル離れた発生地から飛来したと考えられる。

イシガケチョウ 分布圏を北に拡大中の蝶で、神戸でも発見報告の件数が増加している。当公園にも1989年12月に1匹の雌成虫が飛来した。園内をはじめ裏山には餌となるイヌビワが自生しており生息条件は整っていると思われるが定着の兆しは見られない。

<テングチョウ科>

テングチョウ 当公園で年中いつでも見ることのできる蝶であるが、年によって発生量が大きく変動する。1985年と91年は多発生で、6月から翌年の春まで、この蝶の姿を見ない日が無いくらいで羽化の最盛期には公園の花壇で数十匹が乱舞した。

<ジャノメチョウ科>

ヒメウラナミジャノメ どこにでもいる普通の蝶なのに、当公園には少ない。毎年5月に出現して数日間滞在するが次からの世代が続かない。

食草や生息環境から見て、もっと多く発生しても不思議はないのだが。

クロヒカゲ 本種も当公園で見えることは少ない。

6～9月の間に飛来することがあり、数日滞在する。

ヒカゲチョウ 前種と同じ位に少ない。5～6月の間に出現し、数日間滞在する。年に1匹か2匹見るだけであるが、何時も新鮮な個体である。

ヒメジャノメ 都市近郊に、ごく普通の蝶であるが当公園には飛来することは少ない。6月から11月の間に姿を現すことがあり、数日間滞在する。

サトキマダラヒカゲ 本種の飛来数も少ない。

例年6月に新鮮な個体が飛来するが滞在時間は長くない。公園を通過するだけのこともある。公園内にはネザサのほかに植栽されたクマザサなどがあるので定着の可能性はあると考えられる。

<セセリチョウ科>

コチャバネセセリ 5月中旬頃に羽化したばかりの新鮮な個体が花壇に現れ、気温の高い日中には路上で吸水するのが見られる。生息密度はこの頃が一番高く、その後の飛来数は少ない。公園に飛来した成虫はそのまま住み着いているようで滞在期間が長い。公園内のタケ・ササ類で発生していると推定される。

キマダラセセリ 夏から秋にかけて公園の花壇に時々飛来するのを見る。幼虫の食性からみて当公園内でも生息の可能性は高いが確認していない。

オオチャバネセセリ 当公園花壇の常連で、6月から11月までの間観察できる。飛来数は目だつほどには多くなく、約10平方メートルの花壇で一度に視野に入るのは、多い時でも2～3匹程度である。年による発生量の変動は少ない。公園内のタケ・ササ類で幼虫が育っているであろう。

チャバネセセリ 夏の終わりの8月下旬頃から飛来し始めるが、その数は年次変動が大きい。

発生が多い年には11月になってもかなりの個体数が見られる。本種の生態、とくに越冬については不明のことが多く、神戸市内での越冬は確認されていない。5～7月に姿を見せることなく、8月下旬にいきなり飛来があるのは、遠隔地からの移動としか考えられない。

イチモンジセセリ 6～7月の間に少数の飛来があった後、8月中旬頃から増え始め10月末まで公園内で一番数の多い蝶となる。発生源は近郊の水田で、発生量の年次変動が大きく、これまでに多かったのは1994・93・88年であった。多発年には当公園でも数株しかない見本栽培のイネに幼虫が発生した。

諏訪山公園では過去10年間に上述のように51種が観察できた。神戸市内から97種が報告されているので観察を続ければ、もう少し増えるはずである。飛来の可能性のある種をあげれば、次のようである。

ジャコウアゲハ コツバメ ツバメシジミ
ウラナミアカシジミ イチモンジチョウ
コジャノメ ミヤマセセリ

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)



クロオビツツハムシの兵庫県下の分布

(兵庫県甲虫相資料, 306)

高橋 寿郎

クロオビツツハムシ *Physomaragdina nigrifrons* (Hope, 1842) (和名は日本産昆虫総目録 I, 1989による)の兵庫県下での分布については本誌上に何回か発表している(1981, 1988, 1991, 1992)。

1993年にも新しく神戸市内で産地が見つかり採集もした。そこで今一度兵庫県下の分布状況を眺めて見たいと思う。それに入る前にこのハムシについて、現在までどのように日本で扱われてきたか、貧弱な筆者の所有文献でみてみることにしたい。浅学未熟のものがまとめたものである。誤りが多いと思われる。御指摘、御教示頂ければ幸いである。

まずこのハムシは、Baly(以下敬称略)によって長崎産で *Clythra japonica* Baly として新種記載されている(1873)。

1927年 Pic, M. は京都産で *Coptocephala kio-toensis* Pic. なる新種記載をされた。

三輪勇四郎博士は台湾産ダングラツツハムシ *Clythra nigrifrons* Hope を記録された。分布は中国、台湾となっている(1931)。さらに1938年には、*Cyaniris japonica* Baly ニホンマッコウハムシというのを記録されているが、和名と学名のみで何の解説もついていない。

中條道夫博士は、*Cyaniris* (s.str.) *japonica* (Baly) を朝鮮から記録された。分布は、Japan proper, Korea and N.China となっている(1940)。

湯浅啓温博士はクロオビスアルハムシ *Cyaniris japonica* Baly として図説された(1950)。九州ではやや普通種で、7、8月ごろ多く、本州西南部にも分布すると述べられ、外国では朝鮮、済州島、華北にも分布すると解説、食草については何の記もない。

中條道夫博士は、*Gynadrophthalma japonica* Baly subsp. *manderima* Weise として図をつけて記載されており、分布は S. & W. China, Formosa となっており食草はシマサルスベリとある(1952)。

この亜種もやはり図、記載からして日本産クロオビツツハムシと同じ種と考えられる。

1961年木元新作博士は、タイプ標本を検した結果、*Clythra japonica* Baly, *Coptocephala kio-toensis* Pic, *Gynadrophthalma pallens* Baly すべて *Smaragdina nigrifrons* (Hope) のシノニムであると解説されている(Baly が *Gynadrophthalma pallens* として日本産で記録されているのは、"Lewis coll. Japan" とラベルがついているが、真の *pallens* ではなく、やはり *S. nigrifrons* に当たると)。

同じ年の J. L. Gressitt, S. Kimoto 両博士による「中国、朝鮮のハムシ」では、上記学名の下に分類学的種名整理をしておられる。ここでの分布は日本、朝鮮、中国となっている。1963年、中根猛彦博士による原色図説が示され、食草はナツフジとなっている。分布は、本州、四国、九州、朝鮮、満州、中国、台湾。

1964年の木元新作博士の論文では、学名は上記のとおりであるが、日本での分布は本州、四国、九州、対馬となっており検視標本に福岡、大分、長崎、対馬のものはあるが、本州産が全く出ていない。

1971年大野正男教授は、学名は上記のとおりであるが、和名はクロオビナガツツハムシで示されており、同時に異名としてクロオビハムシ、クロオビスアルハムシ、ニホンマッコウハムシを示され

た。

竹中英雄は1975年、カラーで図説され(種名が一字抜けている)、クロオビツツハムシとして分布は本州、四国、九州、対馬として海外の分布に言及していない。ナツフジを食べるとされている。

1980年の「中国経済昆虫誌」第十八冊にはカラーで図説されている。学名は上記のとおりである。

国内(台湾も含む)での多くの産地があげてあり、広く分布しているようである。国外としては朝鮮、日本とある。寄主植物はわりと多く示されている。

1981年の S. Kimoto, J. Gressitt 両博士による「タイ、カンボジア、ラオス、ヴェトナムのハムシ」についての論文の中で、Medvedev 博士が *Clythra nigrifrons* Hope をタイプに新属を設立した(1971)その学名で記録されている。すなわち、*Physomargdina nigrifrons* (Hope, 1842)となる。

これ以後学名は全部これになる(Hope の記載した *Clythra nigrifrons* Hope は中国産で1842年新種記載されている。) 分布として Korea, Japan, Taiwan, China, Vietnam となっている。示された図を見るとヴェトナムの本種は斑紋の変異がわりとあるようである。

1983年木元新作博士は、その時点での分類学的整理をしておられる。その時♂♀の前脛節、前跗節の図がついている(この図は1981年の論文のものと同じである)。1984年、木元新作博士はカラーで図説された。食草はススキの類とされている。

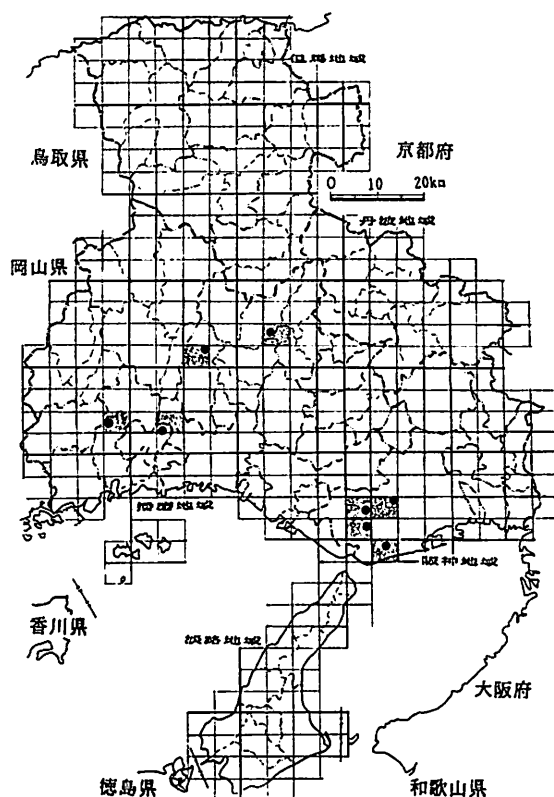
1985年の「決定版 生物大図鑑」はカラーで図説されている。執筆者が無いが竹中英雄氏ではないかと考えられる。ナツフジを食べることが知られており、ススキ類も食草として記録されているとある。分布は本州、四国、九州、石垣島でそれ以外の地について言及されていない。

1989年の「日本産昆虫総目録」によると、分布本州、四国、慶良間島、久場島、阿嘉島、石垣島、朝鮮半島、中国、台湾、ベトナムとあり、一番新しい「日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説」でも同じような分布になっている。

以上が筆者の所有文献で本種についてどのように扱われているかを眺めて見た。分布はかなり広く、どちらかといえば南方系の種のようなのであるが、生態などについての記録はほとんど見られない。日本での食草はイタドリ、マルバハギ、ナツフジ、ススキの類ということのようである。

さて、以上述べた文献からして、本種の分布はかなり広く、日本でも湯浅啓温博士が述べられているように九州では普通にいる種のものであり、それより南へと分布は伸びているが、個体数も多くなるのかもしれない。本州での分布はどんなものか詳しく地方誌を見ていないのでよくわからないが、意外とその記録が少ないのではと考えたりしている。

さて、兵庫県下での分布であるが、今一度今迄の記録を述べてみると次のようになる(地図参照)。



兵庫県におけるクロオビツツハムシの分布概念図

神戸市須磨区多井畑(1ex., 26.VII.1990)、西区寺谷(29.VI.1992, 多数目撃、高橋, 1992)、西区前開(4.VII.1993, 多数目撃、蜂谷幸雄)、北区藍那(3exs., 15.VII.1993)、飾磨郡夢前町我孫子(1ex., 1.VII.1980)、龍野市神岡町(2exs., 21.VII.1998)、相生市三湊山(7exs., 20.VII.1974)、神崎郡神崎町笠形山〔真野, 1992〕

これで見えて頂くと海岸線に近いところに分布しているハムシのようで、兵庫県での北限は今の所笠形山ということになっている。発見することができる。わりと個体数は多いのではないだろうか。兵庫県下での記録からすれば、6月29日～8月4日の間に得られている。ということは、成虫を野外で見られるのは、6月下旬から8月上旬ということになりそうである。真夏のハムシといえそうで、南方系のハムシということはどうなずける。恐らく、県下の海岸線に近いところでは、かなり広く分布しているハムシではないかと考える。

<参考文献>

- Baly, S. (1873) Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science.
Trans. ent. Soc. London 1873-Part. I:79-80.
- Chūjō, M. (1940) Chrysomelid-Beetles from Korea(I).
Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 30(204/205):359
- Chūjō, M. (1952) A Taxonomic Study on the Chrysomelidae (Insecta-Coleoptera) from Formosa. Part.V. Subfamily Clytrinae.
Tech. Bull. Kagawa Agr. Coll. 4(2):78-80
- J. L. Gressitt & S. Kimoto (1961) The Chrysomelidae (Coleop.) of China and Korea, Part. 1. Pacific Insects Monog. 1A:99-101.
- 林 長閑編 (1985) 決定版 生物大図鑑 昆虫II 甲虫, p.246. (世界文化社・東京)
- T. Jugnjie, Y. Peiyu, Li Hongxing, W. Shuyong, J. Shegqlao (1980) Economic Insect Fauna of China.
Fasc. 18. Coleoptera: Chrysomeloidea(1). p.163-164, pl.15, f.142.
- S. Kimoto (1961) A Revisional Note on the type specimens of Japanese Chrysomelidae which are preserved in the Museums of Europe and the United States. I.
Kontyu 29(3):163
- S. Kimoto (1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryuku Islands, II.
Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1):137
- S. Kimoto & J. L. Gressitt (1981) Chrysomelidae (Coleoptera) of Thailand, Cambodia, Laos and Vietnam II. Clytrinae, Cryptocephalinae, Chlamisinae, Lamprosomatinae and Chrysomelidae.
Pacific Insects 23(3/4):313-314, Fig.12d, g.18.
- S. Kimoto (1983) Revisional Study on Megalopodinae, Donacininae and Clytrinae of Japan (Coleoptera: Chrysomelidae)
Ent. Rev. Japan 38(1):16-17, Figs.6a,d.
- 木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑(IV)
pl.30, f.25, p.158. (保育社・大阪)
- 木元新作 (1987) 検索表による日本のハムシ類(XI)
- 木元新作 (1989) 日本産昆虫総目録・I.
p.468(九州大学農学部昆虫学教室刊)

木元新作・滝沢春雄 (1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫類図説. p.122, 277. pl.8, f.4, pl.72, f.13, 14. (東海大学出版会・東京)

三輪勇四郎 (1931) 台湾産昆虫目録(鞘翅目). p.185. (台湾總督府中央研究所刊)

三輪勇四郎 (1938) 日本甲虫分類学. p.176. (西ヶ原刊行会・東京)

中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇). pl.162, f.13, p.324 (北隆館・東京)

大野正男 (1971) 日本産ハムシ科名彙.
東洋大学紀要・教養課程篇(自然科学)第13号:40.

Pic, M (1927) *Coptocephala kiotoensis* n.sp.
L'Echange, Rev. Linn. 43:7.

高橋寿郎 (1981) 兵庫県のナガツツハムシ
きべりはむし 9(1):8

高橋寿郎 (1988) ナガツツハムシの記録
きべりはむし 16(2):54

高橋寿郎 (1991) クロオビツツハムシ神戸市に産す
きべりはむし 19(1):31

高橋寿郎 (1992) クロオビツツハムシの新産地
きべりはむし 20(2):55

竹中英雄 (1975) 学研中高生図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫.
p.142, 248. (学研・東京)

湯浅啓温 (1950) 日本昆虫図鑑 改定版.
p.1191, f.3424 (北隆館・東京)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

コバンムシを神戸市西区で採集

近藤 伸一

コバンムシ *Ilyocoris exclamationis* Scottは浮葉植物の多い深い池や沼に生息する。近年激減した種である。昨年神戸市西区内の水生昆虫を調査していて偶然採集した。採集した池は200m²程度の小さい池で、周囲は農地と道路に取り囲まれ水辺までススキやセイタカアワダチソウなどの背の高い草が生い茂り、水面はヒシで覆われていた。

コバンムシの他にはミズムシが多く、ヒメミズカマキリ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ヒメガムシなども同時に採集した。

15.IX.1994 2exs. 神戸市西区神出町古神

近藤伸一

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

アカエゾゼミの採集記録

近藤 伸一

県下では比較的採集記録の少ないアカエゾゼミを美方郡で採集しているので、木下賢司氏の採集記録と併せて報告する。

20.VII.1989 1♀ 美方郡村岡町板仕野

近藤伸一

午後3時頃小さな溪流にかかった橋の欄干にとまっていた。

26.VII.1986 1♂ 美方郡温泉町上山高原

木下賢司

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

オオタコゾウムシの採集記録 (宝塚市内)

新家 勝

オオタコゾウムシ *Hypera punctata* (Fabricius, 1775) については、本誌第21巻第1号および第22巻第1号で高橋寿郎氏が紹介されている。県下での産地は、神戸市を中心に三田市が知られているが、筆者は宝塚市内で2exsを採集したので報告する。

1. 19-XI-1983 宝塚市光明池町 1ex.

自宅南面の壁下に落下しているのを採集した。この場所は、あまり見かけないゾウムシが落ちており、これまでにヤサイゾウムシ2exs、シバオサゾウムシ1exを採集している。

本種は、図鑑で同定できなかったもので、1994.8.28に大阪市立自然史博物館の昆虫同定会に持参したところ、岸井尚先生から兵庫県立人と自然の博物館の沢田佳久先生に同定をお願いするよう、ご紹介いただいた。1994.10.5に人と自然の博物館に沢田先生を訪問し、同定をお願いした。沢田先生には、本種についてご解説いただくとともに、貴重な写真を見せていただいた。岸井先生、前記昆虫同定会の甲虫担当の諸先生および沢田先生に大変お世話になったことに対して厚くお礼申し上げます。標本は人と自然の博物館で保管していただいた。

2. 11-XI-1994 宝塚市大原野松尾 1ex

宝塚市立少年自然の家プールに落下しているのを採集した。採集しなければ、溺死するか、食肉性の水生昆虫(プール内には、ミズカマキリ、コオイムシ、アメンボ、マツモムシがいて落下した昆虫を盛んに捕食している)に捕食され、腐敗するところであった。

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

トゲハラヒラセクモゾウムシの採集記録 (西宮市内)

新家 勝

トゲハラヒラセクモゾウムシ *etialma cordata* Marshallは、初めて採集したゾウムシであるうえ、本誌での採集記録がないので報告する。

13-V-1994 西宮市田近野町 1ex

武庫川河原のヤナギ(種名不明、水際に普通に生える)の葉上にいたもので、ハエトリグモのような動作をしていたが、どうも気になるので採集した。

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

クロウスタビガの採集記録

高島 昭

クロウスタビガ *Rhodinia jankowskii* Oberthürを採集したので報告する。

10.X.1988 1♂ 波賀町引原

引原ダムの堰堤の水銀灯に飛来した個体を採集したもので、晴天無風の寒い夜であった。

かなりの珍種で、兵庫県下の記録は見あたらない。隣接する岡山県では県北山地を中心に数例の採集記録がある¹⁾。他に広島県、島根県、青森県、福井県、埼玉県(飯能)、長野県、富山県(黒部川流域)、石川県(山中)、大阪府(箕面)に産するが、産地は限られ採集例は少ない²⁾ようだ。

<参考文献>

- 1) 倉敷昆虫館(1978)岡山県の昆虫：岡山県昆虫生息調査報告書；48-49
- 2) 井上寛他(1982)日本産蛾類大図鑑：講談社 (TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

県 関 係 文 献 紹 介

ひめじの昆虫Ⅱ. 相坂耕作他姫昆メンバー編著

(社) ひめじ花と緑の協会刊. p.73. 1995.

昭和62年(1987)に“ひめじの昆虫Ⅰ”が出版され、その続編になる。(Ⅰ)では、チョウが主体でトンボ、ハチ、ハエ、アブ、ノミ、シラミなどが紹介されていたが、(Ⅱ)では、コウチュウ(57種)、カメムシとセミ(16種)、アリ、直翅類その他が各種ごとカラー図で美しく紹介されている。

なかなか美しい出来で楽しく見る事ができた。本書の奥付には発行を平成4年(1992)となっているが、“姫昆サロニユースNo.107”(1995.Ⅱ)によると、発行の遅れであり、最新版であるとのことの紹介が1995年2月で、頂いたのも2月末であるから、1995年の出版物になるかと思う。頒価は1冊800円である。御恵与下さった相坂耕作氏に厚くお礼申し上げる。

千種川の生態〔水生生物調査〕(佐用ライオンズクラブ(会長 清水眞三))

第22集(平成6年秋) B5, 42p. (Ⅲ.1995)

平成6年秋の千種川における調査結果である。“考察と反省”にも述べておられるように調査が9月始めとあるが、6～7月頃の調査の方が昆虫の種類(特に甲虫類)は多くなると考えられる。息の長い調査であり、調査時期を変えてやる事が、もっと色々の結果が出るように思われる。

県 関 係 ・ 学 会 誌 ・ 同 好 会 誌 ・ 連 絡 誌

(X ・ 1994 ～ Ⅲ ・ 1995)

兵庫生物ニュース (兵庫生物学会) No.19(X・1994) No.20(Ⅰ・1994)

混蟲ずかん (但馬むしの会連絡誌) No.46(臨時増刊号・X・1994) No.47(Ⅰ・1994) No.48(Ⅲ・1995)

PARNASSIUS (淡路昆虫研究会) No.41(X・1994)

河原版・兵庫陸水生物ニュース No.3(Ⅸ・1994) No.4(Ⅱ・1995)

ハーモニー(人と自然の博物館ニュース) No.8(X・1994) No.9(Ⅲ・1995)

自然とともに(兵庫県環境管理課・林務課) 27(X・1994) 28(Ⅲ・1995)

C r u d e (大阪昆虫同好会々誌) No.39(Ⅸ・1994)

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌) Vol.23, No.9-14(VIII・1994-XI・1994)

兵庫陸水生物(兵庫陸水生物研究会) No.45(I・1995)

姫屋サロンニュース No.107,108(II・1995)

人と自然(人と自然の博物館) No.3(March,1994) No.4(December,1994)

交 換 誌

すかしば(山陰むしの会々誌) No.39/40(DEC・1993)

いずもだより(山陰むしの会連絡誌) No.65(X・1993) No.66(XI・1993) No.67(II・1994)
No.68(IV・1994) No.70(XI・1994)

すずむし(倉敷昆虫同好会々誌) No.128(IX・1994)

KURAKON(倉敷昆虫同好会連絡誌) No.32(VI・1994) No.33(VIII・1994) No.34(XI・1994)

I R A T S U M E(但馬むしの会々誌) No.18(V・1994)

お 礼

高橋 寿郎

兵庫県南部地震大変でした。よくぞ吾が家が倒壊しなかったものだと感心しています。建て替的補修が必要かと思っています。

多くの昆虫関係の方々から見舞状とか見舞の電話を頂いたり、見舞い品をお送り頂きました。一々御芳名を記しませんが、有り難う御座いました。厚くお礼申し上げます。

古い虫友、石田 裕氏の死亡ショックでした。会員の方にも被災された方が多くいらっしゃると思います。連絡がなかなか取り難く、ご無事であることをお祈りすると同時に、一日も早く復活を望んでいます。

編 集 後 記

このたびの震災でお亡くなりになった石田 裕様には心からご冥福をお祈り申し上げます。

会員の皆様のご被災状況については、十分に把握できない状況ですが、あれから4カ月たち、街では復興の軌音が響いています。まだまだ虫どころではないという方も多いと思いますが、頑張りましょう。

1月18日の夜は、支援物資の積み込み作業に従事しましたが、いつもは見えない星が異常にキラキラしていたのが印象的でした。全国の方々には、暖かいご支援と激励のお言葉をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、前号で予告していましたように今回より編集担当が代わりました。これまでの伝統を受け継ぎながら、より多くの人に親しまれる紙面づくりをめざして頑張ります。よろしくお願いします。

物価高騰の折から、ワープロによる編集を行い、会誌発行のコスト低減を図りたいと考えています。

また、新しい会員も増えました。本会の目的のひとつに、兵庫県の昆虫相の解明という命題があります。その意味からも身近な記録大歓迎です。多数の投稿を期待しています。次回は1995年11月発行予定です。原稿の締切は9月30日とさせていただきます。

原稿の送付先は下記のとおりです。なお一層の応援と御協力をお願いします。

これから採集シーズンに向かいます。今年は昨年のような猛暑・干ばつにはなりませんように。

(編集担当：近藤伸一・高島昭)

き べ り は む し 第23巻 第1号

1995 年 5 月 25 日 発 行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭

原稿送付先 〒671-22 姫路市書写2452-2 高島昭宛

印刷：岩峰社

目 次

ヤマトエンマコガネの分布について……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料.302)	1
波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報……高島 昭 (兵庫県産蛾類分布調査資料.1)	6
ウスイロコノマチョウの飼育記録……………近藤伸一	17
波賀町坂の谷林道で得られた数種の蛾……………高島 昭	21
諏訪山公園の蝶……………山口福男	22
クロオビツツハムシの兵庫県下の分布……………高橋寿郎 (兵庫県甲虫相資料.306)	27
コバンムシを神戸市西区で採集……………近藤伸一	30
アカエゾゼミの採集記録……………近藤伸一	30
オオタコゾウムシの採集記録(宝塚市内)……新家 勝	31
トゲハラヒラセクモゾウムシの採集記録(西宮市内) ……………新家 勝	31
クロウスタビガの採集記録……………高島 昭	31
県関係文献紹介……………	32
県関係・学会誌・同好会誌・連絡誌(X・1994～III・1995)……	32
交 換 誌……………	33
会員異動……………	33